An abstract graphic design featuring a central yellow circular area with a spiral pattern of green, purple, and blue lines. A thick black line with a spiral pattern enters from the bottom left, crossing the yellow area. Other thick lines in purple, red, and green curve around the central area. A series of blue dots of varying sizes is arranged in a vertical line on the left side. The overall style is artistic and modern.

さいたま市  
文化芸術都市  
創造計画

生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市

## はじめに

文化芸術は、人々の生活にゆとりと潤いをもたららし、豊かな人間関係を育むだけではなく、その創造性によって新たな産業を生み出すなどの経済効果をもたらし、ひいては地域の活性化に結びつくなど、大きな可能性を秘めております。

さいたま市では、こうした文化芸術が持つ力を活かし、「生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市」を創造するため、平成24年4月1日にさいたま市文化芸術都市創造条例を施行しました。

「さいたま市文化芸術都市創造計画」は、この条例に基づき、文化芸術都市の創造に関する施策を総合的かつ計画的に実施するために策定したものです。

計画では、文化芸術に対する子どもの感性の向上や、文化芸術に対する理解及び関心の促進、多様な文化芸術に触れる機会の提供などをはじめとした、7つの基本施策を定め、継続的に取り組むとともに、「文化芸術を活かしたまちの活性化」、「文化芸術都市創造を担う人材の育成」、「さいたま市の魅力ある資源の活用と発信」を3つの重点プロジェクトとして位置付け、今後7年間で特に重点的に取り組むことといたしました。

今後は、この計画のもとに、市民の皆様をはじめ、関係団体等との連携・協働を図りながら、各種施策を積極的に展開し、国内はもとより世界に発信する「文化芸術都市 さいたま市」を創造してまいりたいと考えておりますので、皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

結びに、この計画の策定に当たり、多大なご尽力をいただきました「さいたま市文化芸術都市創造審議会」や「文化芸術に関する意見交換会」の委員の方々をはじめ、貴重なご意見をお寄せくださいました多くの皆様に、心から御礼を申し上げます。

平成26年3月

さいたま市長 清水 勇人



# 目 次

---

## 序 章 計画の策定に当たって

1 計画策定の目的	2
2 計画期間	2
3 計画の位置付け	3
4 用語の定義	3

## 第1章 将来像

## 第2章 文化芸術を取り巻く現状と課題

1 我が国の文化芸術を取り巻く動向	8
2 本市における文化芸術の現状と課題	11

## 第3章 施策展開

1 施策展開の考え方	16
2 基本施策の展開	17
施策1 文化芸術都市の創造のために必要な文化芸術活動の促進	19
施策2 文化芸術に対する子どもの感性の向上	21
施策3 伝統的・民俗的な文化芸術の継承と発展	23
施策4 文化芸術に対する理解及び関心の促進	24
施策5 地域に根ざした文化芸術に関する資源の発掘・保護・活用	26
施策6 多様な文化芸術に触れる機会の提供	30
施策7 文化芸術活動の場となる施設の充実	32
3 重点プロジェクト	34

## 第4章 計画の推進に当たって

1 施策を実施する上での考え方	40
2 新たな基金の設置	42
3 計画の進行管理	42

## 参考資料

1 さいたま市文化芸術都市創造条例	44
2 さいたま市文化芸術都市創造計画の策定体制	47
3 さいたま市文化芸術都市創造計画の策定経過	56
4 アンケート調査	58

## 計画の策定に当たって

- 1 計画策定の目的
- 2 計画期間
- 3 計画の位置付け
- 4 用語の定義

# 序章 計画の策定に当たって

## 1 計画策定の目的

本計画は、市民等が生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市の創造を目的として制定された、「さいたま市文化芸術都市創造条例」（施行：平成 24（2012）年 4 月 1 日）第 6 条の規定に基づき、文化芸術都市の創造に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための計画として策定するものです。

### さいたま市文化芸術都市 創造条例

文化芸術都市の創造に関し、基本理念を定め、市の責務を明らかにするとともに、市民等の理解と協力を得ながら、文化芸術都市の創造のための施策の基本となる事項を定めることにより、総合的かつ持続的な文化芸術の振興を図り、もって市民等が生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市を創造するために制定しました。

条例の理念を  
具現化するため  
の計画

### さいたま市文化芸術都市創造計画 [計画期間：平成 26 年度～平成 32 年度]

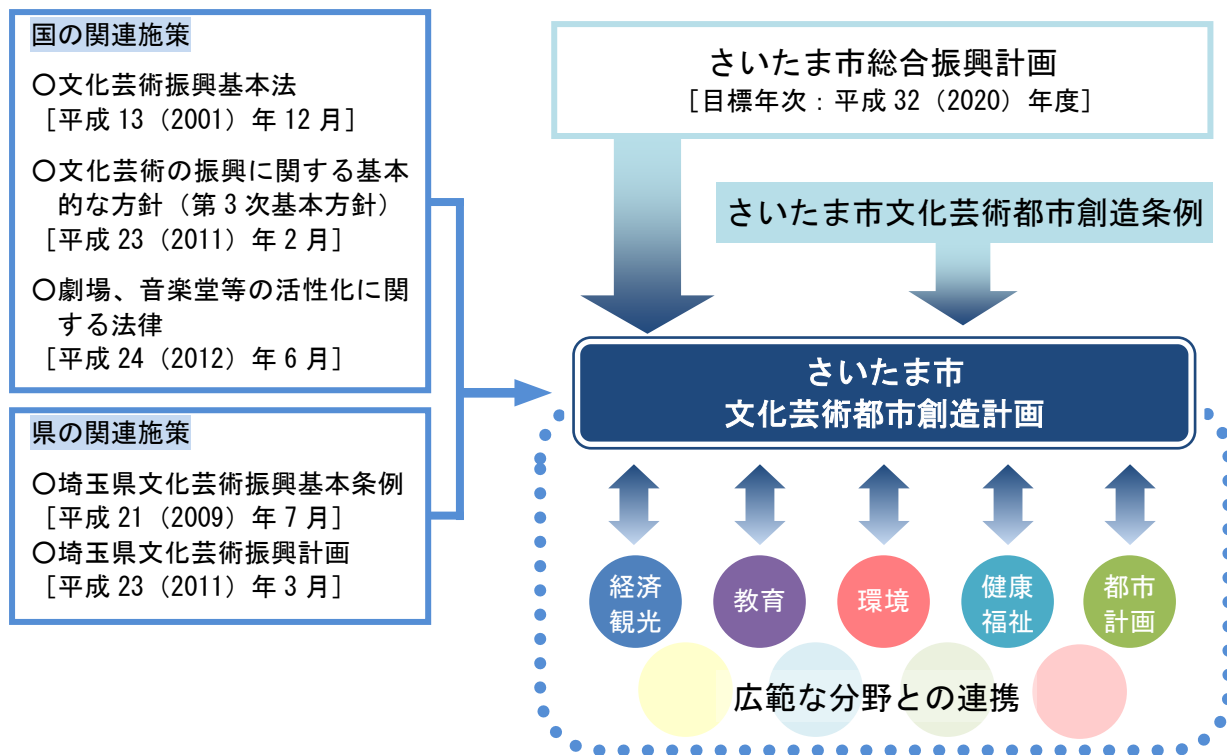
#### 文化芸術の 創造性を活かした まちづくり

教育、観光、健康福祉、都市計画などの幅広い分野や関係団体等との連携、地域経済の活性化・産業の振興への配慮といった新たな視点に立って施策展開を図ります。

## 2 計画期間

本計画の計画期間は、さいたま市総合振興計画基本構想の目標年次と合わせ、平成 26（2014）年度から平成 32（2020）年度までの 7 年間とします。

### 3 計画の位置付け



### 4 用語の定義

本計画における「文化芸術」「文化芸術都市」「市民等」の用語については、「さいたま市文化芸術都市創造条例」に定義するとおりとします。

用語	定義
文化芸術	次に掲げる芸術等であって、盆栽、漫画、人形、鉄道といった地域の活性化及び都市としての魅力の増進に資するものをいう。 ア 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術 イ 芸能（伝統的又は民俗的な芸能に加え、落語、歌唱等の芸能をいう。） ウ 茶道、華道、書道その他の生活に係る文化 エ 囲碁、将棋その他の国民的娯楽
文化芸術都市	市民等が自主的に文化芸術に関する活動を行い、又は文化芸術を享受することにより市民等の文化芸術以外の分野における活動が促進され、かつ、文化芸術の振興を契機として地域が活性化し、市民等が充実した生活を送ることのできる活力のある都市をいう。
市民等	市内に居住し、通学し、通勤し、又は滞在する者、市内において事業活動を行う者及び市内において文化芸術活動を行う者をいう。

# 第1章

## 将 来 像

# 第1章 将来像

文化芸術は、人々の創造性を豊かにし、生活にゆとりと潤いをもたらし、豊かな人間関係を育むものであるだけでなく、新たな産業を生み出すなどの経済効果をもたらし、ひいては地域の振興に寄与し、活力のある都市づくりに結びつくものです。

真に愛し、誇れる郷土を実現するためには、市民等が主体となる文化芸術の振興と、古くから培われてきた文化芸術の持つ伝統と新しい文化芸術の持つ創造性により、本市の経済や教育、都市計画等の様々な分野に影響を与え、地域の活性化を図り、新たな都市としての魅力を高め、文化芸術都市としてのさいたま市を創造することが求められます。

「さいたま市文化芸術都市創造条例」では、さいたま市が目指す将来像を、「生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市」と定めています。これを、より分かりやすく、4つのまちの姿に整理しました。

## 市民等が主体的に文化芸術活動に参画するまち

文化芸術を自ら創造する、あるいは文化芸術活動に関わるイベントを開催する、文化芸術を支えるボランティアとして活動するなど、市民等の主体的な文化芸術活動が活発なまちです。

## 幅広い文化芸術と気軽に触れ合えるまち

文化芸術が市民の生活や地域に溶け込み、だれもが気軽に多様な文化芸術に触れ合う機会があり、一人ひとりが興味のある文化芸術を自分に合った方法で楽しめるまちです。

## 将来像 生き生きと 心豊かに暮らせる 文化芸術都市

世界共通語である「BONSAI（盆栽）」をはじめとする多彩な地域資源を活用するとともに、新たな取組や情報発信を行い、「文化芸術のまち」として国内外に広く知られるまちです。

文化芸術の創造性を活かしたイベントの開催や文化芸術を通じた交流が活発に行われ、そこに暮らす人々や地域経済など、地域全体が活力にあふれているまちです。

## 文化芸術を世界へ発信するまち

## 文化芸術の創造性によって活力にあふれるまち



# 文化芸術を取り巻く 現状と課題

- 1 我が国の文化芸術を取り巻く動向
- 2 本市における文化芸術の現状と課題

## 第2章 文化芸術を取り巻く現状と課題

### 1 我が国の文化芸術を取り巻く動向

現在、我が国における文化芸術振興は、平成13（2001）年に成立した「文化芸術振興基本法」に基づき、平成23（2011）年に決定された「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）」に沿って、進められています。この中では、文化芸術を「成熟社会における成長の源泉」と位置付け、「従来、社会的費用として捉える向きもあつた文化芸術への公的支援に関する考え方を転換し、社会的必要性に基づく戦略的な投資と捉え直す」としており、国家戦略として「文化芸術立国」の実現に向けた方向性が示されています。

また、文化庁では、文化芸術の持つ創造性を地域振興、観光・産業振興等に領域横断的に活用し地域課題の解決に取り組む地方自治体を「文化芸術創造都市」と位置付け、文化庁長官表彰、国内ネットワークやモデルの構築を通じ支援しています。

こうした中、日本各地において、文化芸術を活用した大規模なイベントの開催、市民・行政・大学等が共同で取り組むアートプロジェクト<sup>1</sup>など、多種多様な規模やテーマでまちづくりに寄与する取組が行われています。

また、前述の「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）」において、文化芸術への支援策をより有効に機能させるため、諸外国のアーツカウンシル<sup>2</sup>に相当する新たな仕組みを導入することが「重点的に取り組むべき施策」として挙げられました。

こうした流れを受け、平成24（2012）年には東京都で公益財団法人東京都歴史文化財団内に「アーツカウンシル東京」が設置されるなど、地方自治体においてもアーツカウンシルの導入が始まりつつあります。さらに、劇場、音楽堂等の活性化を図ることにより、実演芸術の水準の向上等を通じて実演芸術の振興を図るため、平成24（2012）年6月に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」が施行され、劇場、音楽堂等の設置者・運営者、実演芸術団体等の関係者が連携協力するとともに、国・地方自治体はその環境整備等に取り組むことなどが定められました。

<sup>1</sup> アートプロジェクト：現代美術を中心に、1990年代以降日本各地で展開されている共創的芸術活動。美術家たちが廃校・廃屋などで行う展覧会や拠点づくり、野外／まちなかでの作品展示や公演を行う芸術祭、コミュニティの課題を解決するための社会実験的な活動など、幅広い形で現れるものを指すようになりつつある。（出典：『日本型アートプロジェクトの歴史と現在 1990年→2012年』東京アートポイント計画）

<sup>2</sup> アーツカウンシル：芸術文化に対する助成を基軸に、政府や自治体から一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関。日本語では芸術評議会などと訳され、欧米諸国やシンガポール、韓国など、世界各国で設置されている。

## 文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）の概要

### 1 文化芸術振興の基本理念

#### (1) 文化芸術振興の意義

- ・文化芸術は、人々が心豊かな生活を実現していく上で不可欠なもの。何物にも代え難い心のよりどころ（誇りやアイデンティティを形成）であって、国民全体の社会的財産。
- ・文化芸術は、創造的な経済活動の源泉、「ソフトパワー」であって、持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤となり、国力を高めるもの。
- ・心豊かな国民生活を実現するとともに、活力ある社会を構築して国力増進を図るため、文化芸術振興を国の政策の根幹に据え、今こそ新たな「文化芸術立国」を目指す。

#### (2) 文化芸術振興に当たっての基本的視点

##### 「成熟社会における成長の源泉」

- ・文化芸術への公的支援を社会的必要性に基づく戦略的投資と捉え直す
- ・成熟社会における成長分野として潜在力を喚起、社会関係資本を増大する観点から、公共政策として明確化
- ・文化芸術の特質を踏まえ、長期的かつ継続的な視点に立った施策を展開

##### 「文化芸術振興の波及力」

- ・教育、福祉、まちづくり、観光・産業等周辺領域への波及効果を視野に入れた文化芸術振興
- ・雇用増大・地域活性化を図り、我が国の文化的存在感を高める観点から、強みを活かした施策の戦略的展開

##### 「社会を挙げての文化芸術振興」

- ・国、地方、民間等各主体が、各々の役割を明確化・相互の連携強化を図り、社会を挙げて文化芸術振興

### 2 文化芸術振興に関する重点施策

重点戦略1：文化芸術活動に対する効果的な支援

重点戦略2：文化芸術を創造し、支える人材の充実

重点戦略3：子どもや若者を対象とした文化芸術振興策の充実

重点戦略4：文化芸術の次世代への確実な継承

重点戦略5：文化芸術の地域振興、観光・産業振興等への活用

重点戦略6：文化発信・国際文化交流の充実

### 3 文化芸術振興に関する基本的施策

1. 文化芸術各分野の振興
2. 地域における文化芸術振興
3. 国際交流等の推進
4. 芸術家等の養成及び確保等
5. 国語の正しい理解
6. 日本語教育の普及及び充実
7. 著作権等の保護及び利用
8. 国民の文化芸術活動の充実
9. 文化芸術拠点の充実等
10. その他の基盤の整備等

## 劇場、音楽堂等の活性化に関する法律の概要

### 1. 趣旨

我が国の劇場や音楽堂、文化会館、文化ホール等（以下「劇場、音楽堂等」という。）に係る現状や課題を踏まえ、文化芸術振興基本法の基本理念にのっとり、劇場、音楽堂等の活性化を図ることにより、我が国の実演芸術の水準の向上等を通じて実演芸術の振興を図り、もって心豊かな国民生活及び活力ある地域社会の実現等に寄与する。

#### 《現状》

- 我が国における劇場、音楽堂等としての機能を有している施設の多くは、文化会館や文化ホールといった文化施設であり、また多目的に利用される場合が多い。
- これら文化施設における文化芸術活動は、多くの場合は、貸館公演が中心となっている。

#### 《主な課題》

- 文化施設の劇場、音楽堂等としての機能が十分に発揮されていない。
- 実演芸術団体の活動拠点が大都市圏に集中しており、相対的に地方では多彩な実演芸術に触れる機会が少ない。

### 2. 概要

- ①「劇場、音楽堂等」、「実演芸術」の定義（第2条）
- ②劇場、音楽堂等の事業（第3条）
- ③劇場、音楽堂等を設置・運営する者の役割（実演芸術の水準向上等）（第4条）
- ④実演芸術団体等の役割（実演芸術に関する活動の充実等）（第5条）
- ⑤国の役割（劇場、音楽堂等に係る環境の整備その他の必要な施策の策定、実施）（第6条）
- ⑥地方公共団体の役割（地域の特性に応じた施策の策定、実施）（第7条）
- ⑦関係者等（劇場、音楽堂等を設置・運営する者、実演芸術団体等、国及び地方公共団体）の相互の連携及び協力（第8条）
- ⑧国及び地方公共団体の財政上・金融上・税制上等の措置（第9条）
- ⑨国際的に高い水準の実演芸術の振興等（第10条）
- ⑩国際的な交流の促進（第11条）
- ⑪地域における実演芸術の振興（第12条）
- ⑫人材（制作者、技術者、経営者、実演家等）の養成及び確保等（第13条）
- ⑬国民の関心と理解の増進（第14条）
- ⑭学校教育との連携（第15条）
- ⑮劇場、音楽堂等の事業の活性化に関する指針の策定（文部科学大臣）（第16条）

## 2 本市における文化芸術の現状と課題

さいたま市は、平成 13（2001）年に浦和市・大宮市・与野市が合併して誕生しました。平成 17（2005）年には岩槻市と合併したことにより、今や人口 125 万人余を擁する大都市として発展を遂げました。現在は、埼玉県のみならず、首都圏をリードする政令指定都市として、経済・産業や教育、文化振興等を牽引する役割が求められています。

平成 18（2006）年 3 月には、「さいたま市文化芸術振興計画」を策定し、歴史と風土に育まれたさいたま市独自の伝統文化と、市民によって創り出される新たな文化の融合により、さいたま市らしさにあふれた「さいたま文化」の創造を目指した取組を進めてきました。

本計画の策定に当たり、これまでの文化芸術振興における施策の進捗状況、その成果の指針となる市民等の文化芸術活動状況、市外から見た都市イメージ等を把握し、多角的な視点から本市の文化芸術に関する現状と課題を明らかにするため、「さいたま市民意識調査」「文化芸術活動団体調査」「市民文化芸術活動状況調査」、関東地方居住者を対象とした「さいたま市イメージ調査」を実施しました。

これらの結果を踏まえ、以下に示す（1）～（4）の 4 つの視点から検証した本市の現状と課題は以下のとおりです。

### （1）文化芸術活動状況

#### 【 現 状 】

本市では、市民等による文化芸術活動を促進するため、「さいたま市文化芸術振興計画」に基づき、文化芸術事業の後援や補助金の交付等を通じた支援を行うとともに、音楽や演劇などの多様な分野において鑑賞等の機会の充実に努めてきました。

しかしながら現状では、月 1 回以上の頻度で文化芸術活動を行う市民は 15.2%にとどまり、全く行わない市民も 46.2%と半数近くに及んでいます（平成 24 年度さいたま市民意識調査）。

また、文化芸術活動を行っている市民においても、観覧や鑑賞等の受動的な活動が中心となっており、主体的な活動を行う市民を増やしていく必要があります（市民文化芸術活動状況調査）。さらに、本市では多くの芸術家が活動を行っていますが、芸術家に対する市の支援は、発表機会の提供程度であり、十分とは言えない状況にあります。

## 【 課 題 】

文化芸術都市の創造には、市民等の文化芸術活動の更なる活性化が必要です。文化芸術活動の活性化を図るためには、市民等の一人ひとりが創造力を発揮し文化芸術を楽しめる環境を整え、継続的に支援していくことが重要です。

また、文化芸術に対する理解と関心を深めるために、世代や興味に合わせた柔軟なテーマに基づく事業の展開を図り、これまで文化芸術に対して興味を持たなかった市民等の参画を促進するとともに、将来の文化芸術活動の担い手である子どもや青少年が文化芸術に接する機会を充実していくことが必要です。

さらに、文化芸術団体が行っている事業や文化芸術の創造の担い手である芸術家への支援の充実を図るとともに、その支援策をより効果的に機能させる仕組みづくりにも取り組んでいく必要があります。

## (2) 文化芸術を取り巻く環境

### 【 現 状 】

本市には、文化センター、市民会館<sup>3</sup>、プラザ<sup>4</sup>などの施設や、59の公民館、19のコミュニティセンター、24の図書館に加え、市内各地に博物館、美術館等が整備されており、また、県立の美術館や民間の文化芸術関連施設など、多くの文化芸術活動を行う場となる施設はありますが、アンケート調査等の結果からは、更なる活動の場の充実が求められています（文化芸術活動団体調査）。

また、施設全体では高い利用率であっても、ホールや集会室は満室であるが、茶室の利用は少ないというように、機能別での利用率にはばらつきがあり、あまり有効に活用されていない機能も見られる状況にあります。

### 【 課 題 】

文化芸術都市の実現に向けて、市民等が活発に文化芸術活動を行うことができる環境づくりが求められています。そのためには、市は、文化芸術活動を支えている既存文化施設の利便性向上や機能の充実を図るとともに、文化施設間の連携強化や利用者に分かりやすい方法で、施設に関する情報発信を行っていく必要があります。

また、今後、文化施設においては、市民等が多様な文化芸術と接する機会の提供や市民等が行う主体的な文化芸術活動に対する支援など、ソフト面における機能の強化を図っていく必要があります。

<sup>3</sup> 市民会館：さいたま市文化会館条例に基づき設置されている、市民会館うらわ、市民会館おおみや、市民会館いわつきの3施設のこと。

<sup>4</sup> プラザ：さいたま市コミュニティ施設条例に基づき設置されている、プラザイースト、プラザウエスト、プラザノースの3施設のこと。

### (3) 本市の文化芸術資源

#### 【 現 状 】

本市誕生から 10 年以上が経過し、かつて 4 つの都市において育まれてきた多様な歴史と文化は、10 区の個性として引き継がれています。また、「盆栽」、「漫画」「人形」「鉄道」をはじめとする多彩な文化芸術資源を活かした市民等の文化芸術活動によって、「さいたま市らしさ」が育まれています。

アンケート調査の結果では、本市の主な文化芸術資源として「大宮氷川神社」、「鉄道博物館」、「岩槻の人形」、「盆栽村」、「さいたま芸術劇場」などが広く知られています（平成 25 年度さいたま市民意識調査）。また、地域に根ざした郷土芸能や見沼田圃の緑や荒川・元荒川の水辺に象徴される自然、国宝 2 件、国指定特別天然記念物 1 件を含む、500 件以上の指定文化財など多くの文化芸術資源があります。

しかし、こうした資源は、市民の地域への愛着や誇りを育み、都市としての魅力向上に資するものであるにもかかわらず、これまで十分に活用されてきていないといった意見もあります。

#### 【 課 題 】

これまで、本市では、さいたま市文化芸術振興計画に基づき、「盆栽」、「漫画」、「人形」、「鉄道」や指定文化財などの地域に根ざした多彩な文化芸術資源を活用し、美術館や博物館等における展示事業をはじめとする多くの文化芸術事業を展開してきました。

今後は、「盆栽」、「漫画」、「人形」、「鉄道」という本市の魅力ある資源を今まで以上に活用・発信していくとともに、盆栽と人形、漫画と音楽など、分野を超えた連携を行い、新たな魅力を生み出すなど、資源のブランド力を総合的に高めていく取組が必要です。

また、長い歴史の中で継承されてきた有形・無形の貴重な文化財を次代に継承するとともに、積極的に活用していくことが必要です。

#### (4) 本市のイメージ・文化芸術を活かしたまちづくり

##### 【 現 状 】

本市では、これまでさいたま市らしさにあふれた「さいたま文化」の創造・発信を目指し、文化芸術の振興を図ってきました。

しかし現状では、本市を「文化的なまち・芸術のまち」としてイメージする市民は15.0%となっており、「スポーツの盛んなまち」の44.7%などと比べて低い状況にあります（平成25年度さいたま市民意識調査）。

また、文化芸術を活かしたまちづくりに必要な取組に関するアンケート調査の結果では、「伝統的な文化の保存と活用」、「観覧等への参加機会の充実」、「大規模な文化芸術イベントの開催」、「新しい文化資源の発掘と育成」などを求める意見が多く寄せられています（市民文化芸術活動状況調査）。

##### 【 課 題 】

これまで、さいたま市文化芸術振興計画に基づき、様々な取組を行ってきましたが、現状では、本市を「文化的なまち・芸術のまち」と感じている市民は決して多くはありません。

今後は、教育や経済等の様々な分野と連携し、本市の文化芸術の活性化を図るとともに、文化芸術を活かした地域経済の活性化や産業の振興という視点を踏まえながら活力のあるまちづくりに向けた取組を行っていくことが必要です。



## 施策展開

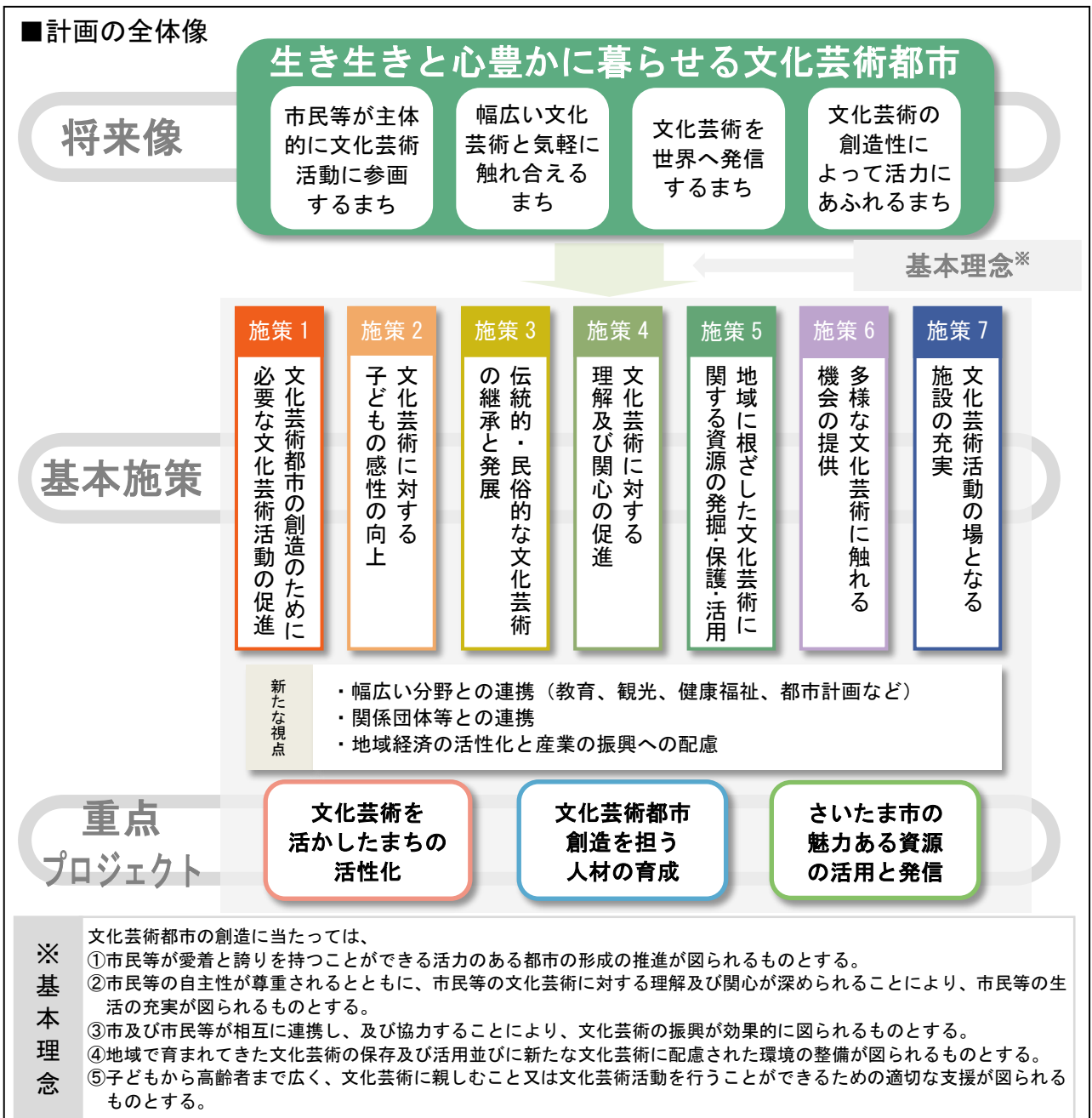
- 1 施策展開の考え方
- 2 基本施策の展開
- 3 重点プロジェクト

# 第3章 施策展開

## 1 施策展開の考え方

この計画では、将来像である「生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市」の創造に向けて、さいたま市文化芸術都市創造条例第7条に基づく7つの施策を基本施策とし、教育、観光、健康福祉、都市計画など幅広い分野との連携や関係団体等との連携、地域経済の活性化や産業の振興への配慮といった新たな視点に立って、各施策の具体的な取組を示します。

また、本市の現状と課題を踏まえ、今後7年間の計画期間の中で重点的に取り組むべき事項を定めた3つの重点プロジェクトを設定します。この重点プロジェクトは、基本施策の横断的・総合的な取組であり、一体的に取り組むことで施策の効果的な推進を図ります。



## 2 基本施策の展開

基本施策の体系は、「さいたま市文化芸術都市創造条例」第7条に基づき定めるものです。

### ■基本施策の体系

基本施策	施策展開	具体的な取組
<b>施策 1</b> 文化芸術都市の創造のために必要な文化芸術活動の促進	1-1. 文化芸術活動に関わる人材の育成・支援	○芸術家の活動機会の充実 ○文化芸術事業の企画・運営に関わる人材の育成 ○文化芸術団体の交流の促進
	1-2. 情報基盤の充実	○文化芸術に関わる人材・団体情報の収集・提供 ○文化芸術活動に対する顕彰
<b>施策 2</b> 文化芸術に対する子どもの感性の向上	2-1. 子どもの文化芸術教育の推進	○未就学児に対する鑑賞・体験機会の充実 ○学校等との連携を通じた文化芸術教育の推進
	2-2. 子どもの鑑賞・発表・体験機会の充実	○子どもを対象にした鑑賞・体験機会の充実 ○子どもを対象にした発表機会の充実
<b>施策 3</b> 伝統的・民俗的な文化芸術の継承と発展	3-1. 伝統的・民俗的な文化芸術の継承	○後継者育成に対する支援 ○人材等の情報収集・提供
	3-2. 伝統的・民俗的な文化芸術に触れる機会の充実	○伝統的・民俗的な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実
<b>施策 4</b> 文化芸術に対する理解及び関心の促進	4-1. 鑑賞機会の充実	○身近な鑑賞機会の創出 ○魅力ある文化芸術の鑑賞機会の提供
	4-2. 活動への参加機会の充実	○発表機会の充実 ○体験機会の充実
	4-3. 鑑賞・参加機会に関する情報収集・提供	○文化芸術事業に関する情報収集・提供
<b>施策 5</b> 地域に根ざした文化芸術に関する資源の発掘・保護・活用	5-1. 盆栽文化の振興	○大宮盆栽美術館を拠点とした盆栽文化の振興 ○「大宮盆栽」のブランド化と盆栽に関わる産業の振興 ○盆栽文化と触れ合える機会の拡充
	5-2. 漫画文化の振興	○漫画会館等を活用した漫画文化の振興 ○漫画文化に関わる人材の育成
	5-3. 人形文化の振興	○（仮称）岩槻人形会館の整備 ○人形に関わる産業の振興
	5-4. 鉄道文化の振興	○鉄道博物館等との連携強化 ○鉄道文化に関する情報発信の強化
	5-5. 多彩な文化芸術資源の発掘・保護・活用	○文化芸術資源を活かした事業の推進 ○文化財等の保存・継承
<b>施策 6</b> 多様な文化芸術に触れる機会の提供	6-1. 文化芸術を通じた交流の推進	○国際的な文化芸術イベントを通じた交流 ○本市とゆかりのある都市との交流 ○多様な芸術家と地域の交流
	6-2. 文化芸術によるまちづくり	○文化芸術資源を活かしたまちづくり ○文化芸術を活かしたまちづくり事業への支援
<b>施策 7</b> 文化芸術活動の場となる施設の充実	7-1. 文化芸術の活動の場となる施設の機能向上・充実	○利用者や時代のニーズに合わせた施設機能の向上 ○利用者の利便性向上 ○利用者に優しい施設の創出
	7-2. 文化芸術都市創造に向けた拠点機能の構築と施設連携	○拠点機能の構築 ○埼玉県や民間の文化関連施設との連携 ○拠点施設を中心とする文化施設間の連携

新たな視点

地域関係の活性化と産業の振興への配慮  
 幅広い分野との連携（教育、観光、健康福祉、都市計画など）

【施策の基本的な考え方】

市は、市民、文化芸術団体、芸術家等が行う主体的な活動を支援するとともに、文化芸術を「創造する」、「支える」、「つなぐ」人材の育成に取り組み、本市の文化芸術活動の促進を図ります。

1-1 文化芸術活動に関わる人材の育成・支援

市内で活発に活動している芸術家や文化芸術団体、また、文化芸術活動を支えるボランティアや文化芸術事業の企画や運営を担うことのできる人材の育成・支援を行います。

○芸術家の活動機会の充実

市内で活躍する芸術家に対し、創作活動や発表の場の提供を行います。

<取組例>

- ・文化芸術事業における芸術家の起用
- ・人材や団体情報の集積と公開を行う人材情報バンク事業の充実

○文化ボランティアの活性化

ボランティアスタッフの活動機会を充実し、文化芸術活動を支える人材の育成を図ります。また、市が行う文化芸術事業においても、積極的に文化ボランティアの活用を図ります。

<取組例>

- ・既存のボランティア組織の充実
- ・文化芸術事業におけるボランティアの活用

○文化芸術事業の企画・運営に関わる人材の育成

文化芸術事業を企画・運営することができる人材の育成を図ります。

<取組例>

- ・文化芸術事業の企画・運営ができる人材育成事業の実施

○文化芸術団体の活動支援

文化芸術団体が行う文化芸術事業に対する支援を行います。

<取組例>

- ・市内に事務所を置き活動する文化芸術団体が行う事業に対する補助金交付

## ○文化芸術団体の交流の促進

市内で活動する文化芸術団体の交流を促進し、団体間のネットワークの充実を図ります。

<取組例>

- ・複数の文化芸術団体が参加する共同イベントの実施

## ○文化芸術活動に対する顕彰

市内在住または本市にゆかりがあり、文化芸術等の分野で顕著な功績のあった方を顕彰します。

<取組例>

- ・文化芸術等の分野で顕著な功績のあった者に対する文化賞の贈呈

## 1-2 情報基盤の充実

文化芸術に関する人材や団体の情報を広く収集し、分かりやすく提供することで、市民等と芸術家や団体の橋渡しを行うとともに、文化芸術団体の情報発信に関する支援を行います。

## ○文化芸術に関わる人材・団体情報の収集・提供

文化芸術に関連する豊富な人材や団体の情報を収集し、提供します。

<取組例>

- ・人材や団体情報の集積と公開を行う人材情報バンク事業の充実【再掲】

## ○文化芸術団体の情報発信に対する支援

文化芸術団体が行う事業や会員の募集等についての情報発信を支援します。

<取組例>

- ・団体情報や会員募集などの情報をインターネット上に公開する「生涯学習情報システム」の充実
- ・市内で開催される文化芸術事業を掲載したリーフレットの作成・配布

【施策の基本的な考え方】

市は、将来の文化芸術の担い手である子どもたちの豊かな感性と創造性を育むために、幼少期から文化芸術に触れ合う機会の提供や学校等との連携を通じた文化芸術教育の充実に取り組むとともに、子どもたちが気軽に参加できる鑑賞機会や実際に文化芸術に触れ合える体験教室や講座の充実を図ります。

2-1 子どもの文化芸術教育の推進

子どもの持つ豊かな感性を伸ばし、創造性を育むため、学校教育等との連携を通じて、子どもたちが質の高い文化芸術や多様な文化芸術に触れ合える機会の充実を図ります。

○未就学児に対する鑑賞・体験機会の充実

未就学児の豊かな体験を支援するため、未就学児に対する催し等の情報を幼稚園・保育園等に提供します。また、乳幼児期から身近に文化芸術に触れ合える環境づくりに努めます。

<取組例>

- ・乳幼児期から楽しめる音楽コンサートの開催
- ・親子で参加できる文化芸術に関する体験教室の開催

○学校等との連携を通じた文化芸術教育の推進

子どもたちが身近に質の高い文化芸術を体験・鑑賞・学習できる環境づくりに向けて、学校等と連携し、アウトリーチ<sup>5</sup>やワークショップ事業を実施します。また、子どもたちの郷土意識を高め、知識や教養を育むため、地域の歴史文化資源や伝統的・民俗的な文化芸術をはじめとする多様な文化芸術を活かした体験学習の充実を図ります。

<取組例>

- ・小学校や中学校などを会場としたプロの演奏家による音楽コンサートの実施
- ・学校と美術館の連携による授業の実施

<sup>5</sup> アウトリーチ：アーティストなどを地域の様々な施設に派遣して、ワークショップやミニコンサートなどを実施する取組。

## 2-2 子どもの鑑賞・発表・体験機会の充実

子どもの豊かな感性や創造性を育むため、学校教育の場だけではなく、気軽に参加できる文化芸術の鑑賞・発表・体験の機会を提供します。

### ○子どもを対象にした鑑賞・体験機会の充実

未来を担う子どもたちが文化芸術に出会い、体験できるよう、子どもを対象とした様々なプログラムを継続して実施します。その実施に当たっては、地域の文化人や芸術家と連携を図るとともに、伝統的・民俗的な文化芸術など、多様な文化芸術を活用した手法を検討します。

<取組例>

- ・子どもが楽しめるコンサート等の実施
- ・子どもを対象とした伝統文化体験教室の開催

### ○子どもを対象にした発表機会の充実

子どもたちの文化芸術の創造や活動の意欲を高めるため、子どもたちが日頃の文化芸術活動の成果を発表する機会の充実を図ります。また、コンテストを通じて、練習の成果に対する評価や講評を行うなど、将来の芸術家の育成という視点も踏まえた事業を実施します。

<取組例>

- ・小学生・中学生を対象とした管楽器と打楽器の独奏コンテストの開催
- ・市内で活動している子どもを中心としたグループによる発表会の開催

【施策の基本的な考え方】

伝統的・民俗的な文化芸術の継承と発展を図るため、こうした文化芸術を引き継ぎ、さらに次の世代に伝えていけるように人材の育成を支援します。また、鑑賞や体験の機会を充実することで、市民等が伝統的・民俗的な文化芸術に関心を抱く契機とし、裾野を拡大していくことで、将来的な人材の確保につなげていきます。

3-1 伝統的・民俗的な文化芸術の継承

伝統的・民俗的な文化芸術を次代に継承していくため、後継者育成に対する支援を行うとともに、伝統的・民俗的な文化芸術に関する人材や団体の情報を集め、必要とするところに効果的に発信します。

○後継者育成に対する支援

伝統的・民俗的な文化芸術に関する後継者育成等に対する支援を行います。

<取組例>

- ・ 郷土芸能伝承を目的とする団体への活動支援
- ・ 伝統芸能に関する子どもたちの成果発表会等への支援

○人材等の情報収集・提供

伝統的・民俗的な文化芸術に関する人材や団体の情報収集を行い、鑑賞や学習の機会を希望する個人や団体への情報提供を行います。

<取組例>

- ・ 人材や団体情報の集積と公開を行う人材情報バンク事業の充実【再掲】

3-2 伝統的・民俗的な文化芸術に触れる機会の充実

伝統的・民俗的な文化芸術を鑑賞する機会の充実を図るとともに、専門的な指導のもとで、実際に体験する機会の充実を図り、こうした文化芸術への関心を促し、将来的な人材確保につなげていきます。

○伝統的・民俗的な文化芸術の鑑賞・参加機会の充実

伝統的・民俗的な文化芸術に関する関心を促すため、伝統文化施設<sup>6</sup>を中心に、多様な機会を活用しながら、鑑賞や参加機会の充実を図ります。

<取組例>

- ・ 伝統芸能に関する鑑賞事業の実施
- ・ 郷土芸能に関する体験教室の開催

<sup>6</sup> 伝統文化施設：さいたま市伝統文化施設条例に基づき設置されている、氷川の杜文化館、恭慶館の2施設のこと。



【施策の基本的な考え方】

文化芸術に対する理解や関心の促進を図るため、文化芸術に接する機会の充実を図ります。事業の展開に当たっては、幅広い世代に向けた文化芸術や人々の感性を刺激するような先進的な文化芸術の活用を図ります。特に、将来の文化芸術の担い手である若い世代に対しては、多様な生活スタイルに合わせ、若い世代が参加しやすい仕組みづくりを進めます。

4-1 鑑賞機会の充実

文化芸術に対する理解と関心を深めるため、身近な場所で気軽に鑑賞をすることができる場を創出するとともに、幅広い世代を対象とした魅力ある文化芸術の鑑賞機会を提供します。

○身近な鑑賞機会の創出

美術館や文化施設等を訪れなくても、近隣施設やまちなかなどの身近な場所で、気軽に文化芸術を鑑賞することができる環境づくりに努めます。また、障害者施設や高齢者施設において、芸術家によるコンサートなどのアウトリーチ<sup>7</sup>事業を推進し、障害のある人や高齢者が身近に文化芸術と触れ合える機会の充実を図ります。

<取組例>

- ・音楽やアートを活用したまちなかで行うイベントの開催
- ・高齢者施設や障害者施設における音楽コンサートの開催

○魅力ある文化芸術の鑑賞機会の提供

うらわ美術館、文化センター、プラザ<sup>8</sup>などにおいて、施設の特徴を活かした各種事業を展開し、幅広い世代を対象に、魅力ある文化芸術を鑑賞する機会の充実を図ります。

<取組例>

- ・美術館等の特徴を活かした展示事業の実施
- ・文化施設における質の高い鑑賞事業の実施

<sup>7</sup> アウトリーチ：アーティストなどを地域の様々な施設に派遣して、ワークショップやミニコンサートなどを実施する取組。

<sup>8</sup> プラザ：さいたま市コミュニティ施設条例に基づき設置されている、プラザイースト、プラザウエスト、プラザノースの3施設のこと。

## 4-2 活動への参加機会の充実

文化芸術に対する理解と関心を深めるため、契機となる発表や体験の機会の充実を図ります。

### ○発表機会の充実

幅広い世代の人が文化芸術活動の成果を発表する機会の充実を図ります。多様な施設を活用し、幅広い文化芸術分野の発表機会を提供することで、創作活動の意欲向上を図り、文化芸術に対する理解と関心を深めます。

<取組例>

- ・公民館において利用団体が日頃の活動成果を発表する「地区公民館文化祭」の開催
- ・日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真の6部門を対象とする公募展の開催

### ○体験機会の充実

幅広い世代の人が文化芸術を体験できる参加型事業の充実を図り、市民等の文化芸術に対する理解と関心をより一層深めます。

<取組例>

- ・音楽などの文化芸術に関するワークショップの開催

## 4-3 鑑賞・参加機会に関する情報収集・提供

市民等の鑑賞・参加機会の充実を図るため、市内で行われる文化芸術イベント等の情報を広く収集し、分かりやすく、市民等の目に触れやすい形で発信します。

### ○文化芸術事業に関する情報収集・提供

市が主催する事業や市内の文化芸術団体や芸術家等が行っている文化芸術活動の情報を広く収集し、提供します。

<取組例>

- ・文化芸術イベント情報誌やホームページを通じた情報提供
- ・市内で開催される文化芸術事業を掲載したリーフレットの作成・配布【再掲】

【施策の基本的な考え方】

合併により誕生した本市には、各地域の長い歴史や生活の中で育まれてきた多彩な文化芸術資源があります。こうした資源を発掘・保護・活用するとともに、「盆栽」、「漫画」、「人形」、「鉄道」をさいたま市の魅力ある資源として位置付け、これらの資源を活かした取組を積極的に展開します。

5-1 盆栽文化の振興

盆栽は、生きた芸術作品として、日本国内はもとより、海外からも高く評価されています。本市における盆栽文化は、大正 14（1925）年に大宮盆栽村が誕生してから今日に至るまで、長い歴史の中で育まれてきました。現在、盆栽園が点在する大宮盆栽村は、大宮盆栽美術館を中心とする盆栽文化の発信拠点として、世界から注目されています。このように世界に誇れる盆栽文化を積極的に振興し、国内外に発信していきます。

○大宮盆栽美術館を拠点とした盆栽文化の振興

大宮盆栽美術館は、盆栽文化の拠点施設として、世界に誇る大宮の盆栽文化を広く発信するとともに、地域との連携を図りながら、資料収集、調査研究、教育普及など盆栽文化の振興につながる各種事業を行います。また、周辺の文化施設との連携や未利用地の活用などを検討し、大宮盆栽美術館を拠点としたまちづくりを推進します。

<取組例>

- ・（仮称）盆栽アカデミーの実施
- ・大宮盆栽美術館における資料等の通常展示や企画展等の実施

○盆栽文化と触れ合える機会の拡充

盆栽に関する各種イベントや盆栽教室などを通じて、盆栽と触れ合う機会の拡充を図ることで、愛好者の増加につなげ、盆栽文化の活性化を図ります。

<取組例>

- ・世界盆栽大会の開催支援
- ・盆栽教室の開催

## ○「大宮盆栽」のブランド化と盆栽に関わる産業の振興

「大宮盆栽」を世界的ブランドとして確立し、海外からの観光客や海外への販路の拡大を図ります。また、大宮の盆栽の伝統的な技術を継承する盆栽園を伝統産業に属する事業所として市内外に広く発信します。

<取組例>

- ・大宮盆栽海外展開プロジェクトの推進
- ・伝統産業活性化事業の推進

## 5-2 漫画文化の振興

日本近代漫画の先駆者である北沢楽天は、昭和23(1948)年、盆栽町に「楽天居」を構え、終の棲家としました。同地は作品とともに市に寄贈され、現在、その場所はさいたま市立漫画会館となり、楽天ゆかりの品や作品を展示しています。

こうした日本近代漫画の先駆者ゆかりの地としての地域特性を活かし、漫画文化の振興を図ります。

### ○漫画会館等を活用した漫画文化の振興

北沢楽天などの漫画関係資料の収集、展示等を行う漫画会館や、プラザノースのユーモアスクエアを拠点として、漫画文化の振興につながる各種事業を行います。また、漫画文化に関する積極的な情報発信を行います。

<取組例>

- ・収蔵品の展示や現代の漫画家の作品を紹介する企画展の充実
- ・ユーモアフォトコンテストの実施

### ○漫画文化に関わる人材の育成

漫画文化の裾野の拡大を目指し、漫画に関わる人材の育成を図ります。

<取組例>

- ・子どもを対象にした漫画教室の実施

### 5-3 人形文化の振興

城下町として長い歴史を持つ岩槻は、日本有数の人形生産地として知られています。その職人技術は、江戸時代に花開いた衣装人形や木目込み人形の伝統を受け継ぐものであり、日々の生活の中に、人形が身近なものとして根付いています。

このように「人形のまち」として知られる岩槻で、育まれ受け継がれてきた伝統ある人形文化の振興を図ります。

#### ○（仮称）岩槻人形会館の整備

さいたま市の魅力ある資源である人形文化の拠点施設として、（仮称）岩槻人形会館を整備します。

人と人形の歴史を調査・研究し、その成果を展示等を通じて広く公開することで、人々の人形への親しみを醸成し、人形文化を未来へと継承します。

<取組例>

- ・収蔵品展の開催
- ・人形に関する講演会の開催

#### ○人形に関わる産業の振興

特色ある地域資源である岩槻の人形を本市の魅力として発信していくほか、観光資源としての活用を図ります。また、岩槻の人形の伝統的な技術を継承する事業所に対する支援を行うことで、人形に関わる産業の活性化を図ります。

<取組例>

- ・工房見学や人形づくり体験等の実施
- ・伝統産業活性化事業の推進【再掲】

### 5-4 鉄道文化の振興

明治 16(1883)年の上野－熊谷間の鉄道開通に伴い浦和駅が開業、明治 18(1885)年には大宮駅が開業、明治 27(1894)年には日本鉄道汽車課大宮工場（現：JR 東日本大宮総合車両センター）の開業、昭和 2(1927)年には現さいたま新都心の地に日本三大操車場の 1つ「大宮操車場」が整備され、本市は、鉄道のまちとして発展してきました。現在、大宮駅は東日本最大級のターミナル駅となり、また、平成 19(2007)年には、日本及び世界の鉄道に関わる遺産・資料等を体系的に保存し、調査研究を行うとともに、車両等の実物展示や鉄道の原理・仕組みと最新技術についての体験等ができる「鉄道博物館」が開館し、全国から多くの人々が訪れています。こうした本市における鉄道の歴史を踏まえ、鉄道文化の振興を図ります。

## ○鉄道博物館等との連携強化

本市の鉄道文化の拠点であり、全国的な発信力を持つ鉄道博物館との連携を図り、鉄道文化を振興します。また、東日本旅客鉄道株式会社をはじめとする鉄道関係事業者や地域の鉄道に関わる人材とも連携し、鉄道文化と触れ合う機会の提供を通じて、広く鉄道文化の普及・啓発を推進します。

<取組例>

- ・鉄道関連イベントにおける鉄道文化の啓発
- ・鉄道に関する工場見学イベントの開催

## ○鉄道文化に関する情報発信の強化

各種文化芸術事業と連携し、鉄道文化の啓発に努めるとともに、鉄道文化に関する情報を広く発信します。

<取組例>

- ・鉄道文化に関する冊子の作成・配布

## 5-5 多彩な文化芸術資源の発掘・保護・活用

本市の歴史や暮らしの中で培われてきた地域の文化芸術資源を掘り起こし、様々な事業に活用します。また、こうした文化芸術資源を保存・継承するとともに、広く公開・発信します。

## ○文化芸術資源を活かした事業の推進

本市の歴史や暮らしの中で培われてきた文化芸術資源を活かした様々な事業を企画・実施し、広く発信します。

<取組例>

- ・各区における文化芸術事業の推進
- ・区ホームページによる情報の発信
- ・本市にゆかりのある現代短歌関連事業の実施

## ○文化財等の保存・継承

地域に伝わる伝統行事や郷土芸能、史跡や埋蔵文化財、古文書、城下町や宿場町等の面影を残す環境や古民家など生活や産業に関わる歴史的な資産を文化財に指定するなど、その保存・継承とともに、市の変遷を示す資料などの収集・整理・記録に取り組みます。

<取組例>

- ・見沼通船堀閘門開閉実演の開催
- ・市史編さん事業の推進

【施策の基本的な考え方】

異なる文化同士の出会いは、創造性をかきたて、革新を刺激し、人間生活を豊かにする可能性を有する社会的及び経済的な活力の源泉となるものです。市は、国内外との文化芸術を通じた交流を推進するとともに、文化芸術資源を活かしたまちづくりや市民等が行う文化芸術によるまちづくり事業への支援を行うことで、生活の様々なシーンにおいて、多様な文化芸術に触れる機会を提供します。

6-1 文化芸術を通じた交流の推進

文化芸術を通じた国内外との交流を推進し、多様な文化芸術に触れる機会を創出します。また、交流を通じて本市の文化芸術を広く発信し、本市のイメージアップを図ります。

○国際的な文化芸術イベントを通じた交流

国際的なイベントを通じて、市民等が世界の文化芸術に触れる機会を提供し、また、交流を通じて本市の文化芸術を世界に発信します。

<取組例>

- ・国際的な芸術祭を通じた国際交流の推進
- ・世界盆栽大会を通じた国際交流の推進

○多様な芸術家と地域の交流

国内外の多様な分野の芸術家や芸術関係者等を受け入れ、地域において作品制作、発表等を行う取組を推進し、その制作過程において、地域との交流を生み出し、多様な文化芸術に触れる機会を創出します。

<取組例>

- ・アーティスト・イン・レジデンス<sup>9</sup>の実施

○本市とゆかりのある都市との交流

姉妹都市などの本市とゆかりのある都市と文化芸術を通じた交流を図ることで、多様な文化芸術に触れる機会を提供します。

<取組例>

- ・文化芸術を通じた海外都市との交流
- ・文化芸術を通じた他市との連携・交流

<sup>9</sup> アーティスト・イン・レジデンス：国内外からアーティストを一定期間招聘して、滞在中の活動を支援する事業のこと。

本市は、見沼田圃の緑や荒川・元荒川の水辺に象徴されるような豊かな自然に恵まれているほか、市内各地に数多くの貴重な文化財や長い歴史の中で培われた多様な文化芸術資源があります。文化芸術都市の創造に当たっては、こうした文化芸術資源を活用し、生活の中に歴史・文化が息づくまちづくりを推進するとともに、自然や歴史、文化財等を活用した文化芸術によるまちづくり事業を支援することで、多様な文化芸術に触れる機会を創出します。

### ○文化芸術資源を活かしたまちづくり

本市の地域の特性を活かし、歴史・自然・文化財等を活用した文化芸術によるまちづくりを推進します。

<取組例>

- ・城下町の歴史・文化が息づくふれあいのまちを目指す「岩槻まちづくりマスタープラン」の推進
- ・さいたま芸術劇場までの主要ルートのにぎわいの創出と文化芸術のまちづくりを推進する「アートストリート整備事業」の推進

### ○文化芸術を活かしたまちづくり事業への支援

市民等が自ら企画・運営し、まちのにぎわいや地域交流などにつながる文化芸術によるまちづくり事業に対する支援を行います。

<取組例>

- ・文化芸術によるまちづくり事業に対する補助金交付



【施策の基本的な考え方】

本市は、比較的大きなホール機能を備えた文化センター、市民会館<sup>10</sup>やプラザ<sup>11</sup>をはじめ、コミュニティセンターや公民館、図書館、博物館など、市民等の文化芸術活動の場となる施設を数多く整備しています。

こうした文化施設の安全性の確保や、基本的な機能を維持するための日常的、計画的な管理運営を行うことはもとより、多様化する市民等の文化芸術活動に関するニーズを捉え、的確に対応し、文化芸術活動の一層の活性化を図るため、各施設の特性を十分に発揮し、市民等の誰もが文化芸術を楽しむことができるよう、施設機能の充実を図ります。

7-1 文化芸術の活動の場となる施設の機能向上・充実

文化芸術の活動、鑑賞の場となる施設の利便性を向上させるため、利用者のニーズに合った効果的な機能や設備の充実を図ります。

○利用者や時代のニーズに合わせた施設機能の向上

施設の適切な維持管理を行うことにより、利用者の安全を確保するとともに、利用者や時代のニーズに合った利用価値の高い施設を提供できるよう、選択と集中により施設機能の向上を図ります。

<取組例>

- ・利用者ニーズの高い設備、備品の集中整備

○利用者に優しい施設の創出

乳幼児を連れた方、高齢者や障害のある人、外国語を母語とする方など、多様な利用者にとって利用しやすい環境を創出するため、ユニバーサルデザイン<sup>12</sup>に配慮し、施設のバリアフリー化などを推進します。

<取組例>

- ・施設のバリアフリー化の推進

<sup>10</sup> 市民会館：さいたま市文化会館条例に基づき設置されている、市民会館うらわ、市民会館おおみや、市民会館いわつきの3施設のこと。

<sup>11</sup> プラザ：さいたま市コミュニティ施設条例に基づき設置されている、プラザイースト、プラザウエスト、プラザノースの3施設のこと。

<sup>12</sup> ユニバーサルデザイン：言語、年齢、障害の有無などにかかわらず、すべての人が利用しやすいように製品、建物や都市施設などをデザインすること。

## ○利用者の利便性向上

施設予約や備品等の利用手続き、料金制度など、利用者の視点に立った制度整備を図ります。

<取組例>

- ・公共施設予約システムの改善
- ・施設間での料金、各種制度の整合

## 7-2 文化芸術都市創造に向けた拠点機能の構築と施設連携

市民等の主体的な創造活動に関する総合的な支援を行う拠点施設と文化芸術都市の創造に向けた主要施設を定め、施設間の連携強化や必要な機能構築に向けた検討を行います。

### ○拠点機能の構築

文化芸術都市創造に向けて、文化センターを拠点施設として位置付け、人材の育成、創造活動を行う市民等に対する情報提供、活動に関する相談などを総合的に行う拠点機能の構築を図ります。

<取組例>

- ・拠点機能構築に向けたあり方の検討

### ○拠点施設を中心とする文化施設間の連携

文化施設間のネットワークを強化し、情報発信力の向上や利用促進を図ります。中でも、比較的大きなホール機能を備え、市民等の文化芸術活動を支えている市民会館やプラザ、伝統文化の普及及び伝承を図ることを目的とする伝統文化施設<sup>13</sup>を文化芸術都市創造に向けた主要施設として位置付け、拠点施設や主要施設を中心とした文化施設の有機的な連携を図ります。

<取組例>

- ・拠点施設や主要施設を中心とする施設連携のあり方の検討

### ○埼玉県や民間の文化関連施設との連携

埼玉県や民間の文化関連施設などとの連携を図り、連携事業や情報共有を通じて、相互の情報発信力向上や利用促進を図ります。

<取組例>

- ・県市の文化施設における相互活用や人材交流（技術研修等への相互参加など）
- ・「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」<sup>14</sup>を通じた施設間連携
- ・県市の文化施設におけるチラシの相互配布を通じた広報協力

<sup>13</sup> 伝統文化施設：さいたま市伝統文化施設条例に基づき設置されている、氷川の杜文化館、恭慶館の2施設のこと。

<sup>14</sup> ミュージアムヴィレッジ大宮公園：東武野田線の大宮公園駅を起点とした半径1kmに位置する9つの施設（東武鉄道大宮公園駅、大宮盆栽村、さいたま市立漫画会館、さいたま市大宮盆栽美術館、埼玉県立歴史と民俗の博物館、埼玉県大宮公園事務所、武蔵一宮氷川神社、NACK5スタジアム大宮、さいたま市立博物館）のエリア名称。

### 3 重点プロジェクト

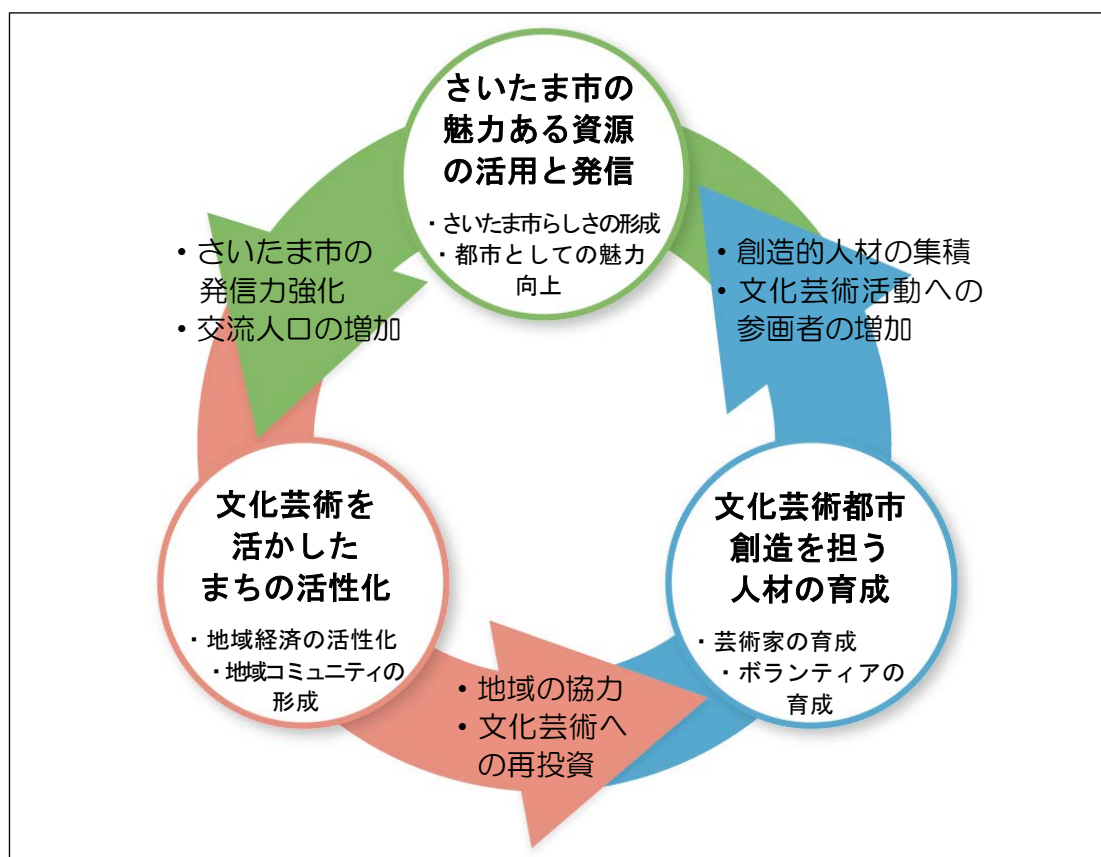
#### (1) 重点プロジェクトの設定

文化芸術都市の創造に当たり、本市における現状と課題を踏まえ、今後7年間で特に重点的に実施する3つの重点プロジェクトを設定します。

重点1	重点2	重点3
文化芸術を活かした まちの活性化	文化芸術都市創造を 担う人材の育成	さいたま市の魅力ある 資源の活用と発信

#### (2) 重点プロジェクトの効果

重点プロジェクトを行うことで、下記のような社会的・経済的な効果を生み出し、文化芸術の基本施策を効果的に推進するための、好循環（サイクル）を形成することが期待できます。重点プロジェクトは、相互に強く関連しており、必要に応じて一体的に取り組んでいきます。



文化芸術都市創造に向けた基本施策の効果的な推進

生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市

### (3) 重点プロジェクトの内容

重点  
プロジェクト  
1

## 文化芸術を活かしたまちの活性化

文化芸術の持つ創造性を活かし、国際的な芸術祭、芸術家の新たな創造環境の創出、文化芸術を活用した産業の振興などを通じて、多様な交流を生み出し、都市の創造性を高め、まちの活性化を図ります。

### 主な取組

#### 国際的な芸術祭の開催

文化芸術都市創造に向けた象徴的・中核的な事業として、国際的な芸術祭を開催します。開催に当たっては、本市の文化芸術を広く発信するとともに、国内外の新たな文化芸術や人材との多様な交流を生み出すことで、都市の創造性を高め、都市イメージの向上やまちの活性化を図ります。

- ・(仮称) さいたまトリエンナーレ<sup>15</sup>の開催

#### 芸術家と地域の交流の促進

既存施設や空き家・空き店舗などを活用したアーティスト・イン・レジデンス<sup>16</sup>などに取り組み、国内外の芸術家と地域住民が作品の共同制作や発表などを通じた交流を行うことで、地域の創造性を高め、まちの活性化を図ります。

- ・アーティスト・イン・レジデンスの実施

#### 文化芸術と産業の連携強化

文化芸術の持つ創造性を本市の産業振興に活かす取組など、文化芸術と産業の連携を進め、文化芸術と産業相互の振興を図ります。

- ・(仮称) さいたまトリエンナーレへの市内企業の参加(参加アーティストと企業の交流促進)

#### <主に関連する取組>

- ・芸術家の活動機会の充実 (施策 1-1)
- ・魅力ある文化芸術の鑑賞機会の提供 (施策 4-1)
- ・「大宮盆栽」のブランド化と盆栽に関わる産業の振興 (施策 5-1)
- ・人形に関わる産業の振興 (施策 5-3)
- ・国際的な文化芸術イベントを通じた交流 (施策 6-1)
- ・多様な芸術家と地域の交流 (施策 6-1)
- ・文化芸術資源を活かしたまちづくり (施策 6-2)
- ・文化芸術を活かしたまちづくり事業への支援 (施策 6-2)

<sup>15</sup> トリエンナーレ：イタリア語で「3年に一度」の意で、3年ごとに開催される芸術祭のこと。

<sup>16</sup> アーティスト・イン・レジデンス：国内外からアーティストを一定期間招聘して、滞在中の活動を支援する事業のこと。

## 文化芸術都市創造を担う人材の育成

若手をはじめとする芸術家の支援を通じて創造活動を行う人材を増やすとともに、創造活動を支えるボランティアの育成や文化芸術イベントを企画・運営できる人材を育成することによって、本市の文化芸術都市創造の中核となる人材を育成します。

### 主な取組

#### 芸術家に対する総合的な支援

文化芸術の創造の担い手である芸術家に対し、活動・発表機会の提供や新たな創造環境の整備充実を図るなど総合的な支援を行い、創造的な人材の集積と育成を図ります。

- ・人材情報バンク事業の拡充

#### 文化芸術活動を支える人材の育成

文化芸術に関するボランティア人口の拡大を図るとともに、活動内容や活動機会の充実を図ることで、文化芸術活動を支える人材の育成を図ります。

- ・(仮称)さいたまトリエンナーレ<sup>17</sup>にPR・運営ボランティアを導入

#### 文化芸術活動をコーディネートできる 人材の育成

文化芸術イベントの企画段階から実施まで、事業全体に参画する機会の充実を図ることで、自ら文化芸術事業等を行うことのできる人材の育成を図ります。

- ・(仮称)さいたまトリエンナーレ市民プロジェクトの支援

#### <主に関連する取組>

- ・芸術家の活動機会の充実 (施策 1-1)
- ・文化ボランティアの活性化 (施策 1-1)
- ・文化芸術事業の企画・運営に関わる人材の育成 (施策 1-1)
- ・子どもを対象にした発表機会の充実 (施策 2-2)
- ・後継者育成に対する支援 (施策 3-1)
- ・漫画文化に関わる人材の育成 (施策 5-2)
- ・拠点機能の構築 (施策 7-2)

<sup>17</sup> トリエンナーレ：イタリア語で「3年に一度」の意で、3年ごとに開催される芸術祭のこと。

重点  
プロジェクト  
3

## さいたま市の魅力ある資源の活用と発信

盆栽、漫画、人形、鉄道を本市の魅力ある資源として位置付け、積極的に活用・発信することで、さいたま市らしさを活かした「文化芸術都市さいたま」としての魅力向上を図ります。

### 主な取組

#### 魅力ある資源を活用した事業の推進

盆栽、漫画、人形、鉄道という本市の魅力ある資源を積極的に活用した事業を推進することで、本市の文化的な独自性（さいたま市らしさ）を生み出し、都市としての魅力向上を図ります。

- ・(仮称)さいたまトリエンナーレ連携事業の実施

#### 魅力ある資源の連携

盆栽と鉄道、漫画と人形など、魅力ある資源相互の連携を図るとともに、音楽など他分野の文化芸術との連携を推進することで、新たな魅力を生み出し、資源としてのブランド力の向上を図ります。

- ・他分野とのコラボレーション事業の実施

#### 魅力ある資源の発信

多様なイベントやメディアを通じて、本市の魅力ある資源を全国・海外に発信します。

- ・世界盆栽大会の開催支援

#### <主に関連する取組>

- ・大宮盆栽美術館を拠点とした盆栽文化の振興 (施策 5-1)
- ・盆栽文化と触れ合える機会の拡充 (施策 5-1)
- ・「大宮盆栽」のブランド化と盆栽に関わる産業の振興 (施策 5-1)
- ・漫画会館等を活用した漫画文化の振興 (施策 5-2)
- ・人形に関わる産業の振興 (施策 5-3)
- ・鉄道博物館等との連携強化 (施策 5-4)
- ・鉄道文化に関する情報発信の強化 (施策 5-4)
- ・国際的な文化芸術イベントを通じた交流 (施策 6-1)

## 計画の推進に当たって

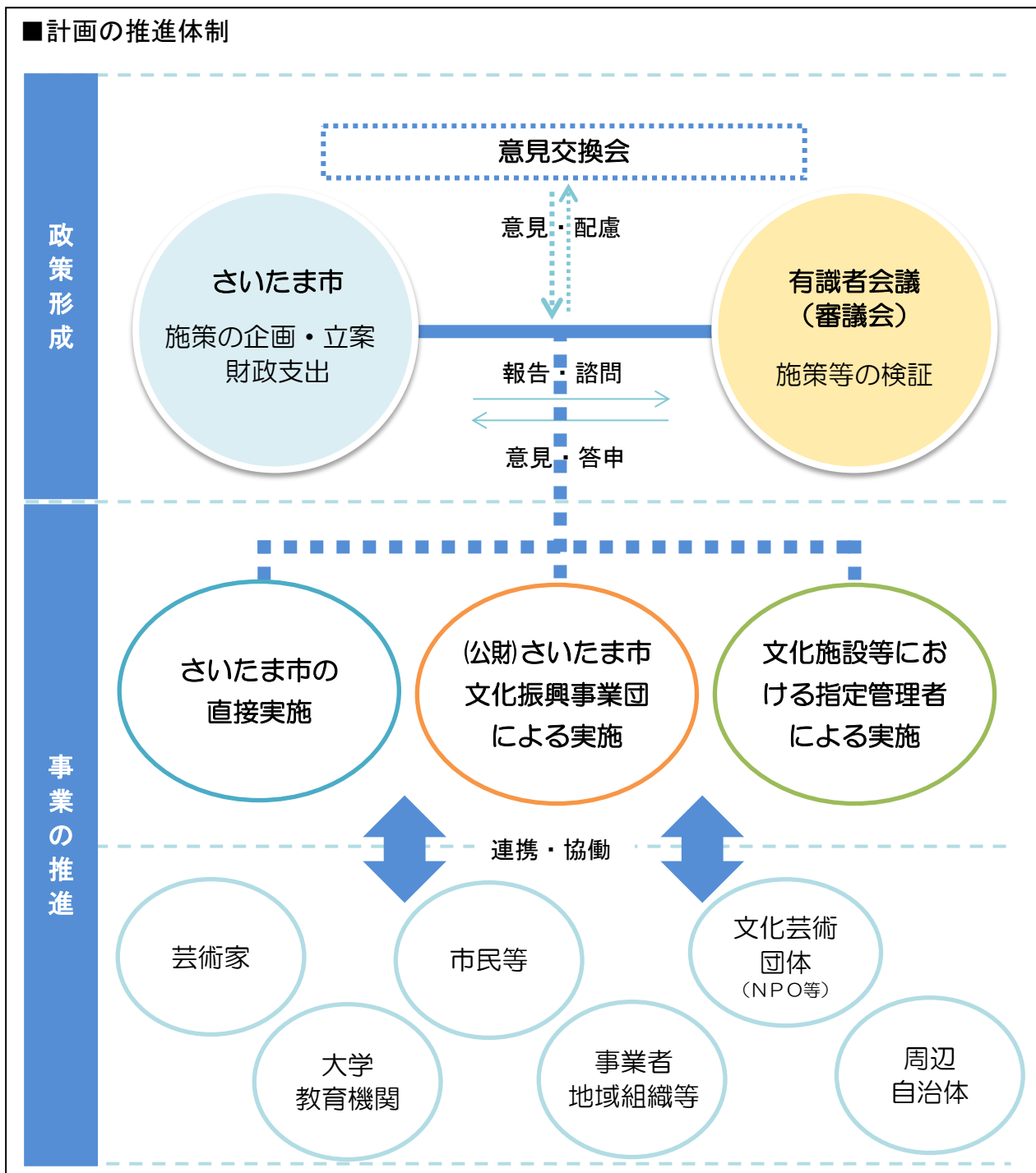
- 1 施策を実施する上での考え方
- 2 新たな基金の設置
- 3 計画の進行管理

# 第4章 計画の推進に当たって

## 1 施策を実施する上での考え方

市は、有識者等の意見を参考にしながら、文化芸術都市の創造に関する総合的・戦略的な施策の企画・立案を行い、市民等の主体的な文化芸術活動への支援や様々な推進主体との連携を図りながら、将来像の実現に向けた取組を進めます。

また、「政策形成」と「事業の推進」についての役割分担を進め、施策をより効率的かつ効果的に行うことのできる推進体制の構築を図ります。





## (1) 市内における推進体制

本計画は、経済・観光・教育・健康福祉・都市計画等、広範な分野との連携を図りながら、総合的な文化政策を展開していくことを基本としています。政策形成及び事業の推進に当たっては、計画の進捗状況等の情報を共有するなど、市内横断的な連携を図ります。

## (2) 市民・関係団体等との連携の強化

文化芸術都市の創造に当たっては、市民、文化芸術団体（NPO等）、芸術家等の主体的な活動に対して支援するなど、多様な主体と連携・協働を図りながら推進していく必要があります。

さらに、埼玉県、周辺自治体、市内外の大学等の教育機関、文化芸術関連団体など、様々な団体や組織と連携・情報交換を行い、効果的な施策の推進を図ります。

## (3) 公益財団法人さいたま市文化振興事業団の役割と連携の強化

公益財団法人さいたま市文化振興事業団は、これまでも文化芸術に関する人材の育成、多様な鑑賞事業や参加型事業等を実施してきており、本市の文化行政の推進において、大きな役割を担っています。

今後も、公益財団法人さいたま市文化振興事業団を文化芸術都市創造に向けた計画の主要な推進主体として位置付け、連携を強化するとともに、これまでに蓄積されてきた文化芸術に関する人材や情報等を最大限に活用し、将来的には本市の文化芸術に関する総合窓口としての機能構築を目指していきます。

## (4) 推進体制の強化

文化芸術都市創造に向けて、様々な文化芸術活動を教育、経済など他の領域とつなげることや、文化芸術団体や芸術家などの創造活動や自立を支援することなどといった、いわゆる「中間支援機能」や文化芸術施策に関する調査研究機能の充実を図っていく必要があります。

このような課題の解決に向けて、推進体制の更なる強化を図るため、公益財団法人さいたま市文化振興事業団の機能強化やアーツカウンシル<sup>18</sup>のような専門組織の導入などを含む幅広い視点での検討を開始します。

---

<sup>18</sup> アーツカウンシル：芸術文化に対する助成を基軸に、政府や自治体から一定の距離を保ちながら、文化政策の執行を担う専門機関。日本語では芸術評議会などと訳され、欧米諸国やシンガポール、韓国など、世界各国で設置されている。

## 2 新たな基金の設置

市民等と行政が一体となって文化芸術都市の創造に向けた取組を安定的かつ継続的に進めるため、市民や企業からの寄附金等と市の積立金の受け皿となる、文化芸術事業や文化財産等の取得に関する新たな基金を設置します。

## 3 計画の進行管理

市は、計画の着実な推進とその実効性を高めるため、さいたま市文化芸術都市創造条例に基づいて設置された「さいたま市文化芸術都市創造審議会」に、計画の進捗状況等についての年次報告を行い、審議会において、施策や施策の進め方等について、定性的な観点から多角的な検証を行います。

また、下記のとおり計画全体の成果指標を設定し、計画の最終的な検証の参考とします。

### ○計画全体の成果指標

この計画は、文化芸術の総合的・持続的な振興を図るとともに、幅広い分野との連携を図り、地域経済の活性化や産業の振興への配慮など、文化芸術を活かしたまちづくりの視点を踏まえたものです。

こうした観点から、本計画における様々な取組についての総合的な進捗状況を検証する1つの指標として、下記指標を設定するものです。

さいたま市を「文化的なまち・芸術のまち」とイメージする市民の割合

平成 25 年度 15.0% → 平成 32 年度 25.0%  
(平成 25 年度さいたま市民意識調査)

---

## 参考資料

---

- 1 さいたま市文化芸術都市創造条例
- 2 さいたま市文化芸術都市創造計画の策定体制
- 3 さいたま市文化芸術都市創造計画の策定経過
- 4 アンケート調査

さいたま市条例第42号

さいたま市文化芸術都市創造条例

文化は、長い歴史と風土の中で育まれていくものであり、時間をかけて文化の振興を図る必要がある。文化の中核をなす文化芸術は、人々の創造性を豊かにし、生活にゆとりと潤いをもたらし、豊かな人間関係を育むものであるだけでなく、新たな産業を生み出すなどの経済効果をもたらし、ひいては地域の振興に寄与し、活力のある都市づくりに結びつくものである。

本市は、文化芸術が古くから生み育てられ、暮らしの中に根ざしているとともに、東日本の交流拠点都市として高度で多様な都市機能が集積していることから、文化芸術をはじめとする様々な分野の活動に適している。また、本市は、合併により誕生した新しい都市であり、文化芸術に関する多彩な地域資源を活かした都市イメージの確立を目指している。

こうした状況の下、真に愛し、誇れる郷土を実現するためには、市民等が文化芸術を楽しむライフスタイルを確立するための環境を整備し、文化芸術に関する活動を行う市民等の自主性を尊重し、市民等の意見を反映させることによって、市民等が主体となる文化芸術の振興が求められている。そして、古くから培われてきた文化芸術の持つ伝統と新しい文化芸術の持つ創造性により、本市の経済や教育、都市計画等の様々な分野に影響を与え、地域の活性化を図り、新たな都市としての魅力を高め、文化芸術都市としてのさいたま市を創造することが必要である。

ここに、さいたま市は、総合的かつ持続的な文化芸術の振興を図り、市民等が生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市を創造するため、この条例を制定する。

(目的)

第1条 この条例は、文化芸術都市の創造に関し、基本理念を定め、市の責務を明らかにするとともに、市民等の理解と協力を得ながら、文化芸術都市の創造のための施策の基本となる事項を定めることにより、総合的かつ持続的な文化芸術の振興を図り、もって市民等が生き生きと心豊かに暮らせる文化芸術都市を創造することを目的とする。

(定義)

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 文化芸術 次に掲げる芸術等であって、盆栽、漫画、人形、鉄道といった地域の活性化及び都市としての魅力の増進に資するものをいう。
  - ア 文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術
  - イ 芸能（伝統的又は民俗的な芸能に加え、落語、歌唱等の芸能をいう。）
  - ウ 茶道、華道、書道その他の生活に係る文化
  - エ 囲碁、将棋その他の国民的娯楽
- (2) 文化芸術都市 市民等が自主的に文化芸術に関する活動（以下「文化芸術活動」という。）を行い、又は文化芸術を享受することにより市民等の文化芸術以外の分野における活動が促進され、かつ、文化芸術の振興を契機として地域が活性化し、市民等が充実した生活を送ることのできる活力のある都市をいう。
- (3) 市民等 市内に居住し、通学し、通勤し、又は滞在する者、市内において事業活動を行う者及び市内において文化芸術活動を行う者をいう。

(基本理念)

第3条 文化芸術都市の創造に当たっては、市民等が愛着と誇りを持つことができる活力のある都市の形成の推進が図られるものとする。

2 文化芸術都市の創造に当たっては、市民等の自主性が尊重されるとともに、市民等の文化芸術に対する理解及び関心が深められることにより、市民等の生活の充実が図られるものとする。

3 文化芸術都市の創造に当たっては、市及び市民等が相互に連携し、及び協力することにより、文化芸術の振興が効果的に図られるものとする。

4 文化芸術都市の創造に当たっては、地域で育まれてきた文化芸術の保存及び活用並びに新たな文化芸術に配慮された環境の整備が図られるものとする。

5 文化芸術都市の創造に当たっては、子どもから高齢者まで広く、文化芸術に親しむこと又は文化芸術活動を行うことができるための適切な支援が図られるものとする。

(市の責務)

第4条 市は、この条例の目的を達成するため、前条に定める基本理念にのっとり、文化芸術都市の創造に関する施策（第7条に定める施策をいう。以下同じ。）を総合的かつ計画的に推進するものとする。

2 市は、市民等が文化芸術都市を創造していく担い手であることを認識し、その自主性を尊重しつつ、市民等に対する支援を行うものとする。

(市民等の相互理解等)

第5条 市民等は、自らが文化芸術都市を創造していく担い手であることに鑑み、相互に理解し、尊重し、協力し、及び支援するよう努めるものとする。

(文化芸術都市の創造のための計画)

第6条 市長は、文化芸術都市の創造に関する施策を総合的かつ計画的に実施するため、文化芸術都市の創造のための計画を策定するものとする。

2 市長は、前項の計画の策定及びその変更に当たっては、その趣旨、内容その他必要な事項を公表し、広く市民等の意見を求めなければならない。

(文化芸術都市の創造に関する施策)

第7条 市は、文化芸術都市の創造のために必要な文化芸術活動を促進するため、文化芸術活動を行う者及びこれらの者を支えるボランティアの育成、交流の機会の提供その他の必要な支援を行うものとする。

2 市は、文化芸術に対する子どもの感性を高めるため、文化芸術に関する教育の充実、子どもが行う文化芸術活動に対する支援その他の必要な施策を講じるものとする。

3 市は、伝統的又は民俗的な文化芸術の継承及び発展に資するため、後継者の育成、確保、支援その他の必要な施策を講じるものとする。

4 市は、市民等の文化芸術に対する理解及び関心を深めるため、市民等が文化芸術を鑑賞し、又は文化芸術活動に参加する機会の充実を図り、これらの機会に関する情報の収集及び提供その他の必要な環境の整備を行うものとする。

5 市は、地域に根ざした文化芸術に関する資源の発掘、保護、活用その他の必要な援助を行うものとする。

6 市は、市民等に対し、多様な文化芸術に触れる機会を提供するため、様々な文化芸術に関する施策の連携その他の必要な施策を展開し、及び充実するものとする。

7 市は、文化芸術活動の場となる施設の充実を図るため、当該施設における文化芸術活動を行いやすくするための機能の充実その他の必要な環境の整備等を行うものとする。

8 市は、前各項に定める施策の実施に当たっては、関係団体等との連携に努めるとともに、地域経済の活性化と産業の振興に配慮するものとする。

(他の施策における配慮)

第8条 市は、市が行う他の施策の推進においても、文化芸術都市の創造に資するように配慮するものとする。

(財政上の措置)

第9条 市は、文化芸術都市の創造に関する施策の実施のため、必要な財政上の措置を講じるものとする。

(審議会の設置)

第10条 第6条第1項の計画の策定及び文化芸術都市の創造に関する施策について、市長の諮問に応じ調査審議するため、さいたま市文化芸術都市創造審議会（以下この条において「審議会」という。）を置く。

2 審議会は、委員10人以内で組織する。

3 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

(1) 学識経験を有する者

(2) 公募による市民等（次号に掲げる者を除く。）

(3) 市内において、事業活動を行う者又は文化芸術活動を行う者

4 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

6 第2項の委員のほか、特別の事項を調査審議するため必要があるときは、審議会に臨時委員を置くことができる。

7 審議会は、第1項の規定による調査審議に当たっては、次条の意見を交換するための場における当該意見について必要な配慮をするものとする。

(施策の効果的な推進のための意見交換)

第11条 市は、文化芸術都市の創造に関する施策の効果的な推進を図るため、市、市民等及び文化芸術に関する専門的な知識又は経験を有する者が相互に意見を交換するための場を設けるものとする。

(委任)

第12条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

○さいたま市文化芸術都市創造審議会

根 拠：さいたま市文化芸術都市創造条例第 10 条

内 容：計画の策定及び文化芸術都市の創造に関する施策について、市長の諮問に応じ調査審議する

○文化芸術に関する意見交換会

根 拠：さいたま市文化芸術都市創造条例第 11 条

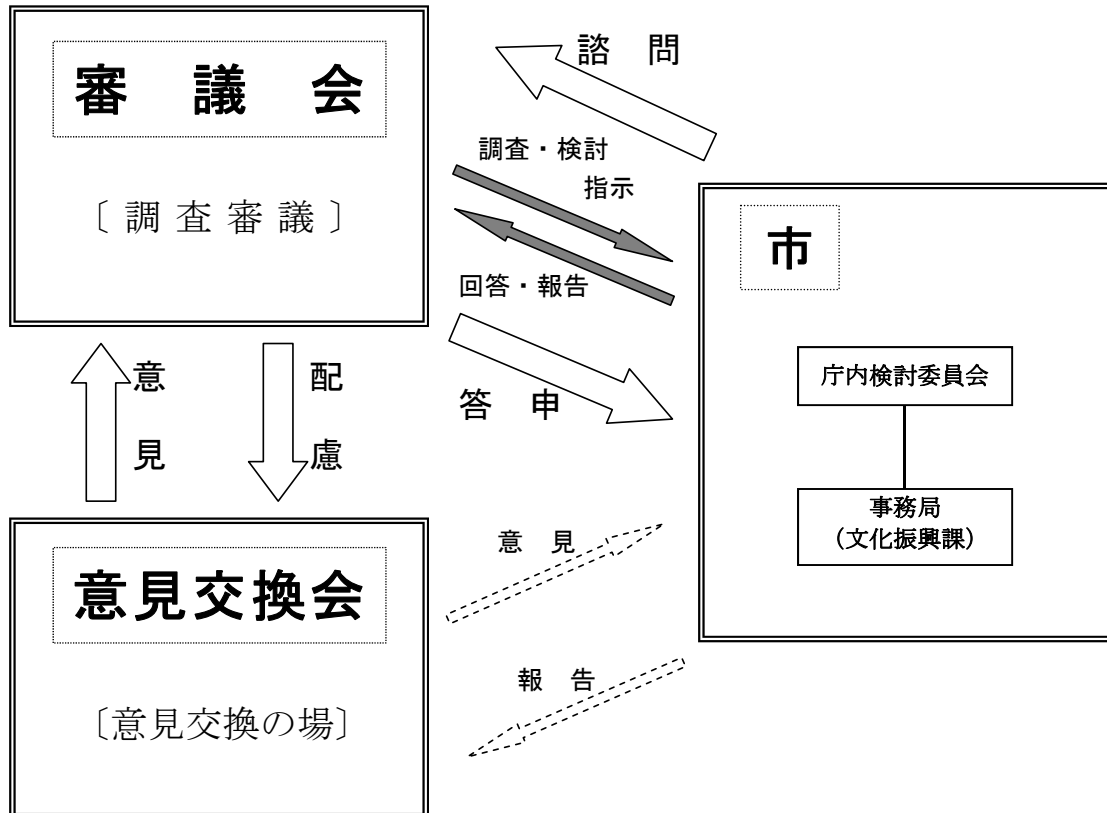
文化芸術に関する意見交換会設置要綱

内 容：文化芸術都市の創造に関する施策の効果的な推進を図るため、市、市民等、文化芸術に関する専門的知識・経験を有する者が相互に意見交換する

○さいたま市文化芸術都市創造計画策定等庁内検討委員会

根 拠：さいたま市文化芸術都市創造計画策定等庁内検討委員会設置要綱

内 容：さいたま市文化芸術都市創造条例第 6 条の規定に基づく文化芸術都市の創造のための計画を策定するに当たり、必要な事項について検討を行う



## ○さいたま市文化芸術都市創造審議会

### ■委員名簿

(敬称略)

	氏名	役職等
会長	加藤 種男	企業メセナ協議会 専務理事
副会長	田中 恭子	埼玉大学経済学部 教授
委員	青木 康高	さいたま市文化振興事業団 理事長
委員	安島 瑤山	公募委員
委員	稲田 浩	さいたま市文化協会 理事長
委員	島 頼子	さいたま観光国際協会 副会長
委員	永島 邦夫	さいたま市自治会連合会 副会長 ※平成 25 年 8 月～
委員	服部 圓	さいたま商工会議所女性会 会長
委員	平野 幸三	NHKさいたま放送局 局長 ※平成 25 年 8 月～
委員	細川 ゆきの	公募委員

[前任者]

- ・中村 みよ子 さいたま市自治会連合会 副会長  
※～平成 25 年 8 月
- ・畑野 祐一 NHKさいたま放送局 局長  
※～平成 25 年 8 月



## ■さいたま市文化芸術都市創造審議会規則

さいたま市規則第59号

さいたま市文化芸術都市創造審議会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、さいたま市文化芸術都市創造条例（平成23年さいたま市条例第42号）第12条の規定に基づき、さいたま市文化芸術都市創造審議会（以下「審議会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(会長及び副会長)

第2条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、審議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会議)

第3条 審議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

2 審議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(関係者の出席等)

第4条 審議会は、審議のため必要があると認めるときは、関係者の出席を求めて説明若しくは意見を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第5条 審議会の庶務は、市民・スポーツ文化局において処理する。

(その他)

第6条 この規則に定めるもののほか、審議会の運営に関し必要な事項は、審議会が別に定める。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

## ■ 諮問・答申

市ス文第 615 号  
平成24年5月29日

さいたま市文化芸術都市創造審議会会長 様

さいたま市長 清水 勇人

### 文化芸術都市の創造について（諮問）

さいたま市文化芸術都市創造条例第10条の規定により下記のことについて、貴審議会の意見を求めます。

#### 記

##### 1 諮問内容

さいたま市における文化芸術都市の創造のための計画及び文化芸術都市の創造に関する施策について

##### 2 諮問理由

別紙のとおり

#### 諮 問 理 由

さいたま市は、文化芸術が古くから生み育てられ、暮らしの中に根ざしているとともに、東日本の交流拠点都市として高度で多様な都市機能が集積していることから、文化芸術をはじめとする様々な分野の活動に適しています。また、本市は、合併により誕生した新しい都市であり、文化芸術に関する多彩な地域資源を活かした都市イメージの確立を目指しているところです。

こうした状況の下、真に愛し、誇れる郷土を実現するためには、市民等が文化芸術を楽しむライフスタイルを確立するための環境を整備し、文化芸術に関する活動を行う市民等の自主性を尊重し、市民等の意見を反映させることによって、市民等が主体となる文化芸術の振興が求められています。

そして、古くから培われてきた文化芸術の持つ伝統と新しい文化芸術の持つ創造性により、本市の経済や教育、都市計画等の様々な分野に影響を与え、地域の活性化を図り、新たな都市としての魅力を高め、文化芸術都市としてのさいたま市を創造することが必要です。

そこで、文化芸術都市の創造に関する施策を総合的かつ計画的に実施するための計画の策定及び同計画に基づく施策展開の方向性について、貴審議会の意見を求めるものであります。

平成26年 2月24日

さいたま市長 清水 勇人 様

さいたま市文化芸術都市創造審議会  
会長 加藤 種男

文化芸術都市の創造について（答申）

平成24年5月29日付け市ス文第615号で諮問を受けた、さいたま市における文化芸術都市の創造のための計画及び文化芸術都市の創造に関する施策について、本審議会は、文化芸術に関する意見交換会や、パブリック・コメント等を通じた多くの皆様の意見を踏まえながら、平成24年度より計6回にわたり会議を開催し、慎重に審議を重ねてまいりました。

こうした審議を踏まえ、さいたま市における文化芸術都市の創造のための計画については「さいたま市文化芸術都市創造計画（案）」、文化芸術都市の創造に関する施策については「(仮称)さいたまトリエンナーレ基本構想（案）」を別冊のとおりまとめましたので、本日ここに答申いたします。

## ○文化芸術に関する意見交換会

### ■委員名簿

(敬称略)

	氏名	役職等
委員長	石上 城行	埼玉大学教育学部 准教授
副委員長	三須 康男	公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 業務執行理事兼総務部長
委員	五十嵐 健一	鉄道博物館 学芸員
委員	井藤 仁	岩槻人形協同組合 理事
委員	大久保 佐貴玖	公募委員 ※～平成 26 年 2 月
委員	おかべ りか	挿絵画家・漫画家
委員	小林 正太郎	株式会社 J T B 関東 法人営業埼玉支店 マネージャー ※平成 25 年 6 月～
委員	齊藤 茂	公募委員
委員	柴原 早苗	公募委員
委員	宮本 智子	公募委員
委員	村木 益実	株式会社 F M N A C K 5 編成部担当部長
委員	山口 聖子	公募委員
委員	山田 登美男	日本盆栽作家協会 代表幹事

[前任者]

- ・竹村 潤一 株式会社 J T B 関東 営業部マネージャー  
※～平成 24 年 10 月
- ・花田 陽介 株式会社 J T B 関東 法人営業埼玉支店マネージャー  
※平成 24 年 11 月～平成 25 年 6 月

## ■文化芸術に関する意見交換会設置要綱

(設置)

第1条 文化芸術都市の創造に関する施策の効果的な推進を図るため、市、市民等及び文化芸術に関する専門的な知識又は経験を有する者が相互に意見を交換する場として、文化芸術に関する意見交換会（以下「意見交換会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 意見交換会は、次の事項について意見交換を行うものとする。

- (1) 文化芸術都市創造のための施策に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 意見交換会は、委員15名以内で組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 公募の市民
  - (2) 文化芸術に関する専門的な知識又は経験を有する者
  - (3) 前号に掲げるもののほか、市長が適当と認める者
- 2 委員の任期は、2年とする。ただし、委員の欠員により新たに委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 意見交換会に委員長を置き、委員の互選により決定する。

- 2 委員長は、意見交換会を総括し、意見交換会の会議の議長となる。
- 3 意見交換会に副委員長を置き、前条第1項の委員のうちから、委員長が指名する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 意見交換会の会議は、必要に応じて委員長が招集する。

- 2 委員長が必要と認めるときは、委員以外の議事に関係のある者の出席を求め、その意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第7条 意見交換会の庶務は、市民・スポーツ文化局スポーツ文化部文化振興課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、意見交換会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

## ○さいたま市文化芸術都市創造計画策定等庁内検討委員会

### ■さいたま市文化芸術都市創造計画策定等庁内検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 さいたま市文化芸術都市創造条例第6条の規定に基づく文化芸術都市の創造のための計画（以下「計画」という。）を策定するに当たり、必要な事項について検討を行うため、さいたま市文化芸術都市創造計画策定等庁内検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査、検討する。

- (1) 計画の策定に関すること。
- (2) 前号に掲げるもののほか、必要な事項に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、別表に定める職員で組織する。

(構成)

第4条 委員会は、委員長、副委員長及び委員により構成する。

- 2 委員長は、市民・スポーツ文化局スポーツ文化部長の職にある者を、副委員長には市民・スポーツ文化局スポーツ文化部次長の職にある者をもって充てる。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長が欠けたとき、又は委員長に事故があるときは、その職務を代理する。

(設置期間)

第5条 委員会の設置期間は、平成26年3月31日までとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、その議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは、関係のある職員に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 委員会の下に、必要な事項を調査及び研究するための専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会の設置及び運営に関しては、別に定める。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、市民・スポーツ文化局スポーツ文化部文化振興課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、平成24年1月26日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年11月19日から施行する。

附 則

この要綱は、平成25年4月1日から施行する。

別表（第3条関係）

市民・スポーツ文化局スポーツ文化部長  
市民・スポーツ文化局スポーツ文化部次長  
市民・スポーツ文化局スポーツ文化部文化振興課長  
市長公室広報課長  
政策局政策企画部企画調整課長  
市民・スポーツ文化局市民生活部コミュニティ推進課長  
市民・スポーツ文化局区政推進室副参事  
保健福祉局福祉部福祉総務課長  
子ども未来局子ども育成部子育て企画課長  
環境局環境共生部環境総務課長  
経済局経済部経済政策課長  
経済局観光政策部観光政策課長  
都市局まちづくり推進部まちづくり総務課長  
建設局土木部土木総務課長  
（幹事区）区役所区民生活部コミュニティ課長  
（幹事区）区役所区民生活部コミュニティ課長  
教育委員会事務局生涯学習部生涯学習振興課長  
教育委員会事務局生涯学習部文化財保護課長

※（幹事区）平成23年度（西区・緑区）、平成24年度（大宮区・中央区）  
平成25年度（浦和区・岩槻区）

## ■平成 23 年度

平成 24 年	2 月 3 日	第 1 回 さいたま市文化芸術都市創造計画策定等 庁内検討委員会
---------	---------	-------------------------------------

## ■平成 24 年度

平成 24 年	5 月 29 日	第 1 回 さいたま市文化芸術都市創造審議会（諮問）
	6 月 1 日 ～15 日	平成 24 年度さいたま市民意識調査
	7 月～8 月	アンケート調査（文化芸術活動団体調査、市民文化 芸術活動状況調査、さいたま市イメージ調査）
	7 月 31 日	第 1 回 文化芸術に関する意見交換会
	8 月 29 日	第 1 回 さいたま市文化芸術都市創造計画 策定等庁内検討委員会
	11 月 1 日	第 2 回 文化芸術に関する意見交換会
	11 月 19 日	第 2 回 さいたま市文化芸術都市創造計画 策定等庁内検討委員会
平成 25 年	1 月 17 日	第 2 回 さいたま市文化芸術都市創造審議会
	2 月 20 日	第 3 回 文化芸術に関する意見交換会
	2 月 21 日	平成 24 年度さいたま市議会市民生活委員会 所管事務調査報告 (新しい文化芸術創造都市を目指して～「さいたま市文化芸術創造都市」宣言～)
	3 月 15 日	第 3 回 さいたま市文化芸術都市創造計画 策定等庁内検討委員会
	3 月 21 日	第 3 回 さいたま市文化芸術都市創造審議会



## ■平成 25 年度

平成 25 年	6 月 4 日 ～18 日	平成 25 年度さいたま市民意識調査
	6 月 28 日	第 1 回 文化芸術に関する意見交換会
	8 月 27 日	第 1 回 さいたま市文化芸術都市創造審議会
	9 月 26 日	第 1 回 さいたま市文化芸術都市創造計画 策定等庁内検討委員会
	10 月 20 日 ～12 月 14 日	タウンミーティング [10 区で開催]
	10 月 23 日	第 2 回 さいたま市文化芸術都市創造審議会
平成 26 年	1 月 21 日	第 2 回 文化芸術に関する意見交換会
	1 月 6 日 ～2 月 5 日	パブリック・コメント制度による意見募集
	2 月 20 日	第 3 回 さいたま市文化芸術都市創造審議会
	2 月 24 日	さいたま市文化芸術都市創造審議会（答申）

## ■パブリック・コメント制度による意見募集結果

- 1 実施期間 平成 26 年 1 月 6 日～2 月 5 日
- 2 意見提出者数 16 人
- 3 意見項目数 67 件
- 4 修正件数 8 件

## ■タウンミーティングの開催結果

- 1 期 間 平成 25 年 10 月 20 日～12 月 14 日（10 区で開催）
- 2 テーマ ○文化芸術都市創造のための具体的な取組について  
○シンボル事業としての（仮称）さいたまトリエンナーレについて
- 3 参加人数 238 人（傍聴者 20 人含む）

(1) 調査の目的

本計画の策定に当たり、市民等の意見を広く取り入れるため、「さいたま市民意識調査」のほか、「文化芸術活動団体調査」、「市民文化芸術活動状況調査」、「さいたま市イメージ調査」を実施し、計画策定の基礎資料とする。

(2) 調査概要

調査名		調査概要
A. さいたま市民意識調査	〔平成25年度〕 A-1. 在住者	①調査対象： 市内在住の満20歳以上の男女5,000人 ②抽出方法： 住民基本台帳に基づく層化多段無作為抽出 ③調査方法： 郵送配布・郵送回収法 ④調査期間： H25.6.4～6.18 ⑤有効回収数： 2,672ss (回収率53.4%)
	A-2. 在勤者	①調査対象： 市内に勤務する満20歳以上の男女2,000人 ②調査方法： 事業所経由で郵送配布・郵送回収法 ③調査期間： H25.6.4～6.18 ④有効回収数： 540ss (回収率27.0%)
	〔平成24年度〕 A-3. 在住者	①調査対象： 市内在住の満20歳以上の男女5,000人 ②抽出方法： 住民基本台帳にもとづく層化多段無作為抽出 ③調査方法： 郵送配布・郵送回収法 ④調査期間： H24.6.1～6.15 ⑤有効回収数： 2,783ss (回収率55.7%)
B. 文化芸術活動団体調査		①調査対象： A文化協会加盟団体(48団体) B文化施設(9施設)利用団体 ②調査方法： A郵送配布・郵送回収法 B直接配布・直接回収法 ③調査期間： H24.7.24～8.6 ④有効回収数： 246ss
C. 市民文化芸術活動状況調査		①調査対象： さいたま市在住のネットリサーチモニター ②調査方法： インターネットによるネットリサーチ ③調査実施： H24.7 ④回収数： 300ss
D. さいたま市イメージ調査		①調査対象： さいたま市を除く関東地方在住のネットリサーチモニター ②調査方法： インターネットによるネットリサーチ ③調査実施： H24.7 ④回収数： 700ss

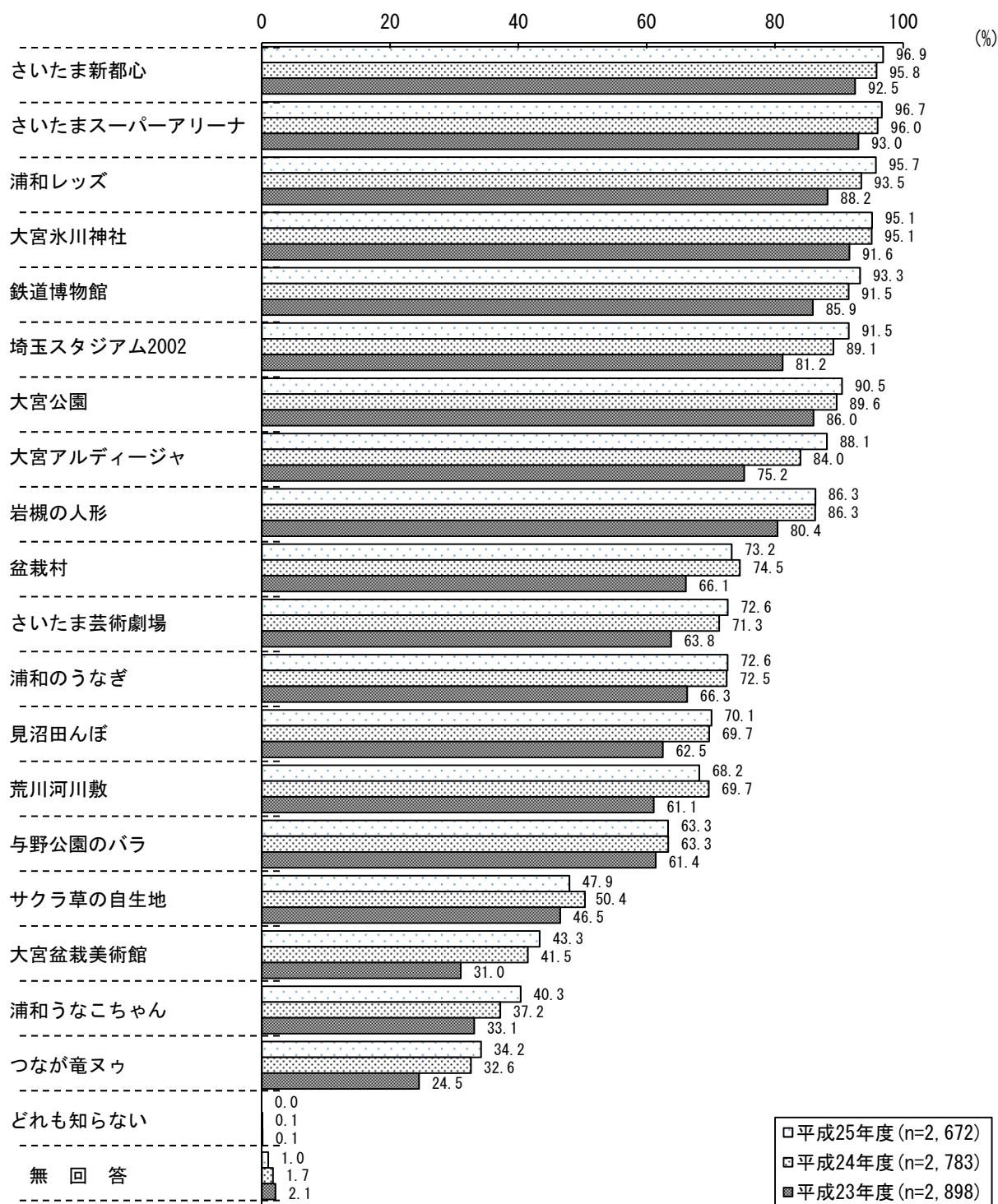
### (3) 主な調査結果

#### A. さいたま市民意識調査（文化芸術に関わる設問を抜粋）

##### A-1. 在住者

問7 「さいたま市内」にある以下の施設、名所、特産品などについてあなたが知っているものすべてに○印をつけてください。（○はいくつでも）

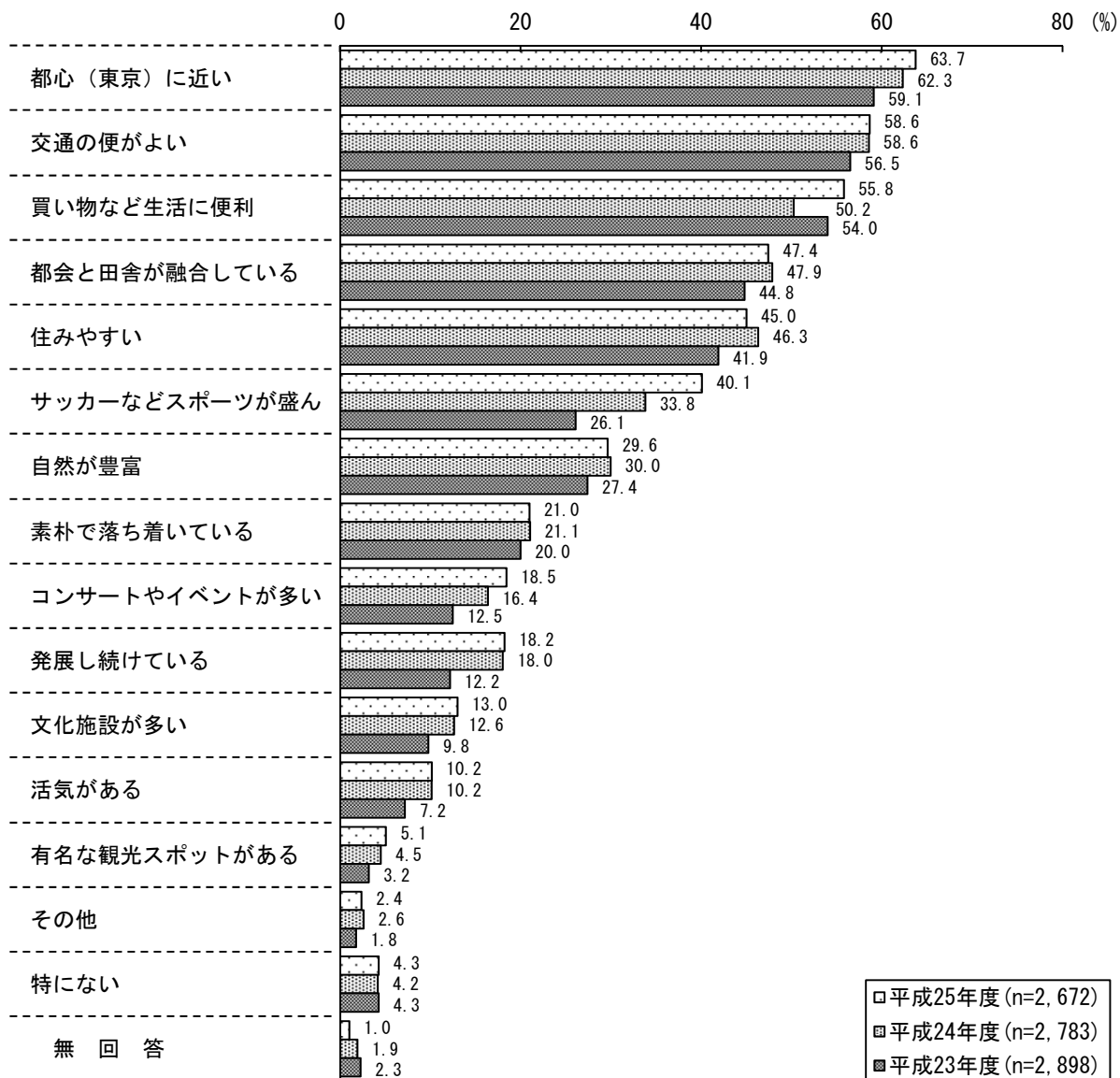
図2-2-1 さいたま市内について知っているもの



(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

問8 あなたは、「さいたま市」のどのようなところに魅力を感じますか。また、よいところだと思いますか。(〇はいくつでも)

図2-3-1 さいたま市の魅力

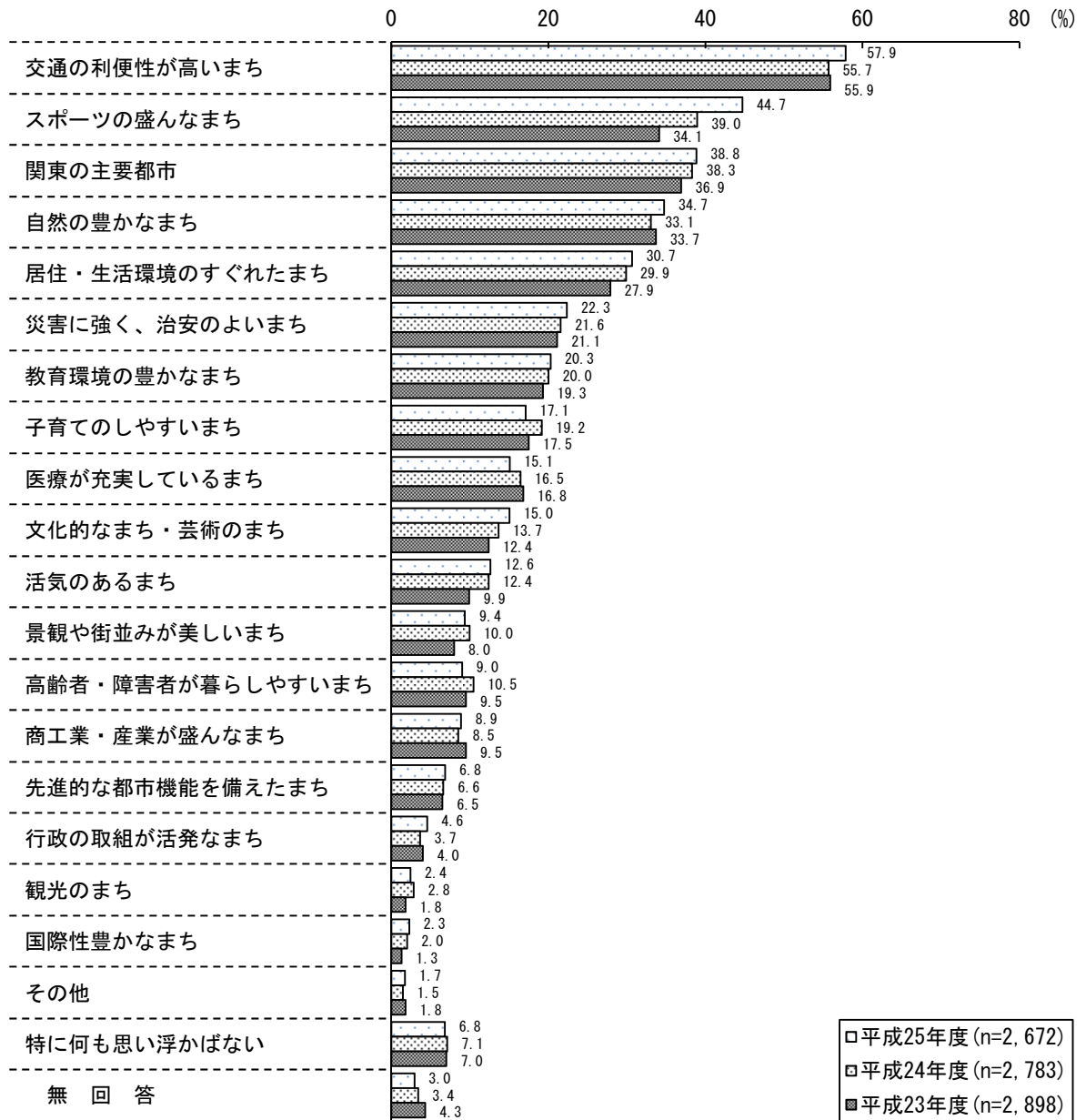


(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

問9 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1)「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

図2-4-1 さいたま市のイメージ

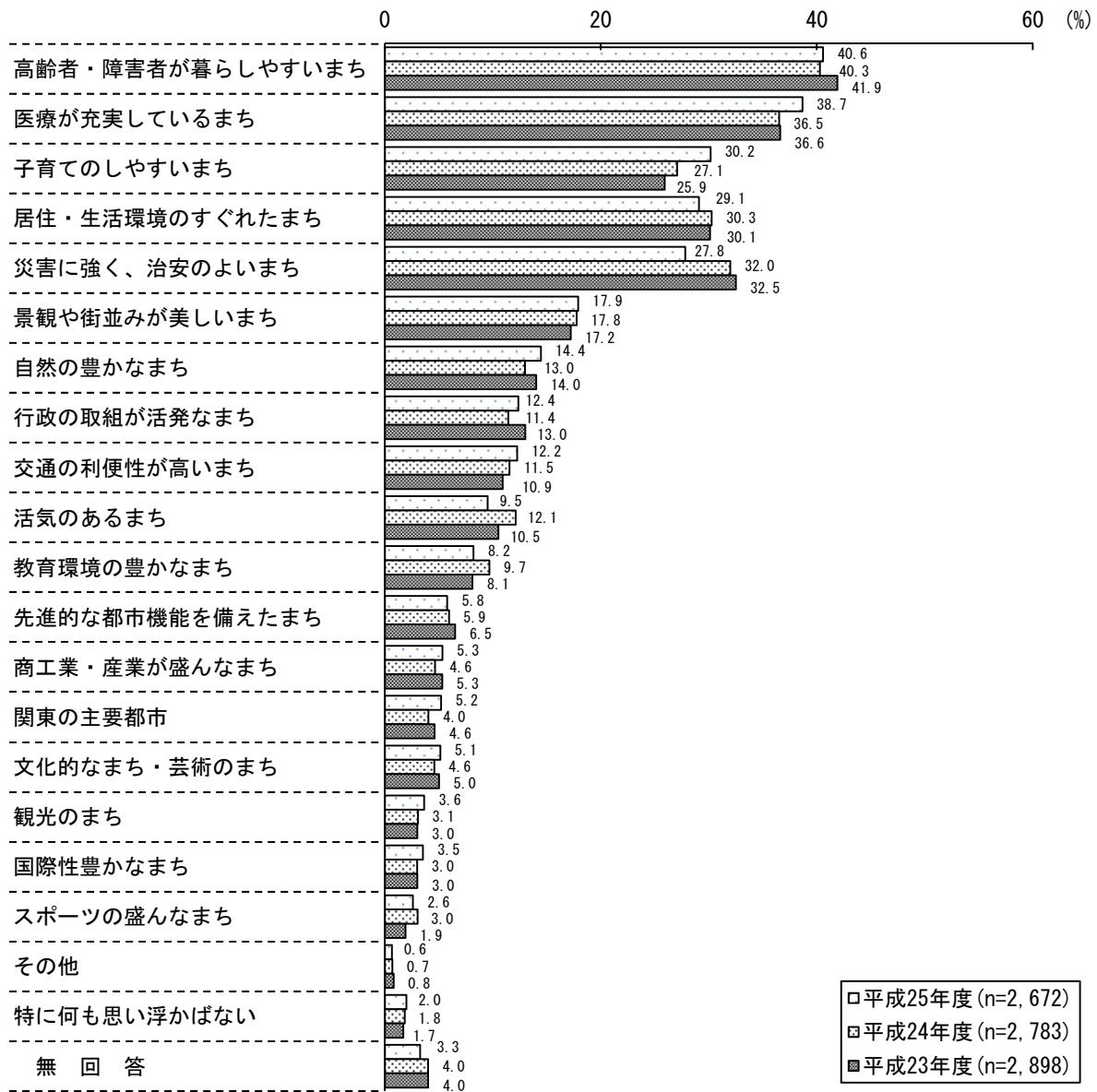


(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

問9 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(2) 誰もが住んでみたいと思う魅力的な都市になるためには、将来どのような方向へ発展すればよいと思いますか。(〇は3つまで)

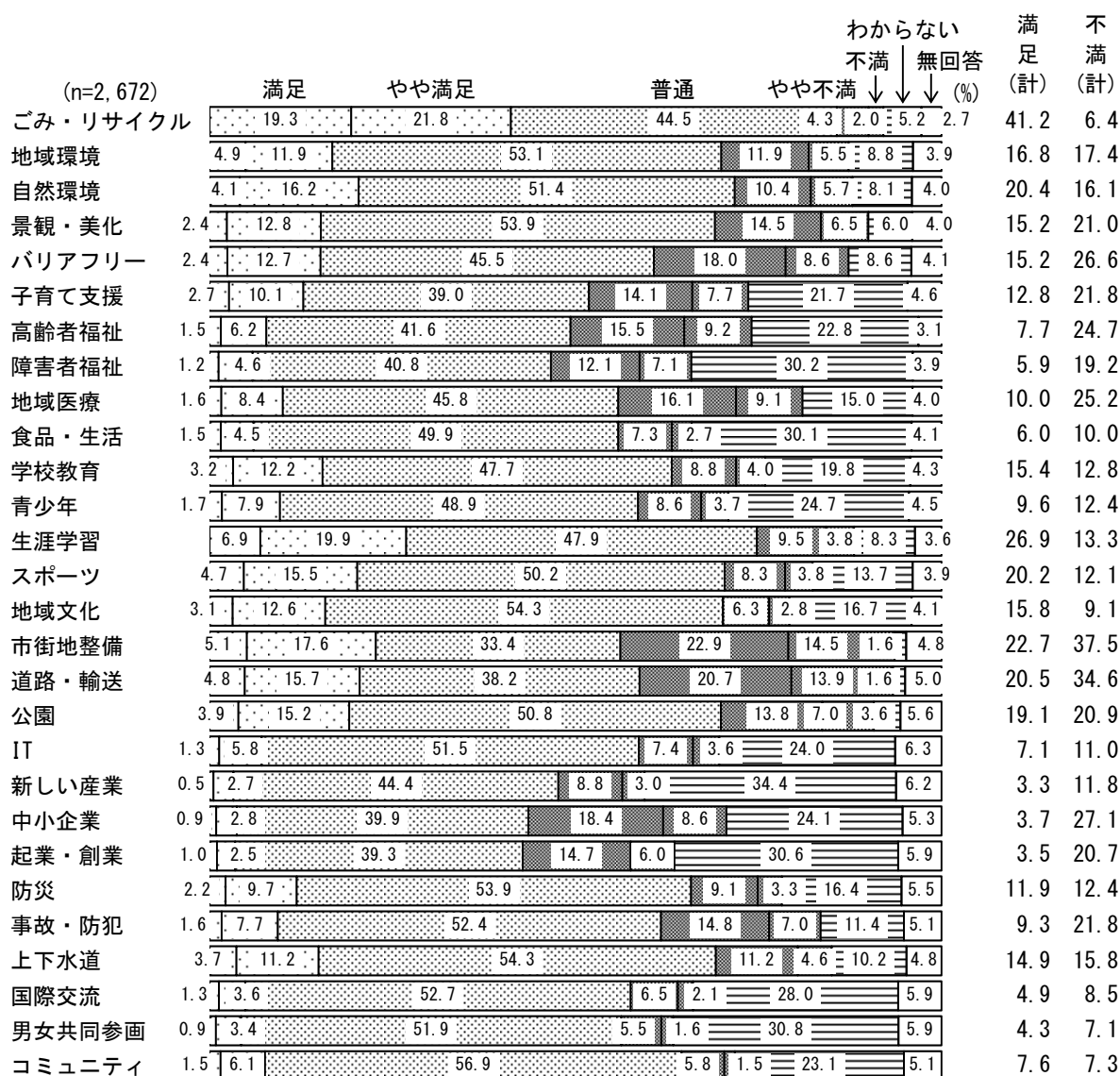
図2-5-1 さいたま市の発展の方向性



(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

問10 「さいたま市」が行っている施策や事業の満足度と重視度について質問します。  
 (1) 以下の1~28の施策について、あなたは、現在どれくらい満足していますか。  
 各項目ごとに当てはまる番号を1つずつ選んでください。

図3-3-1 現状の満足度



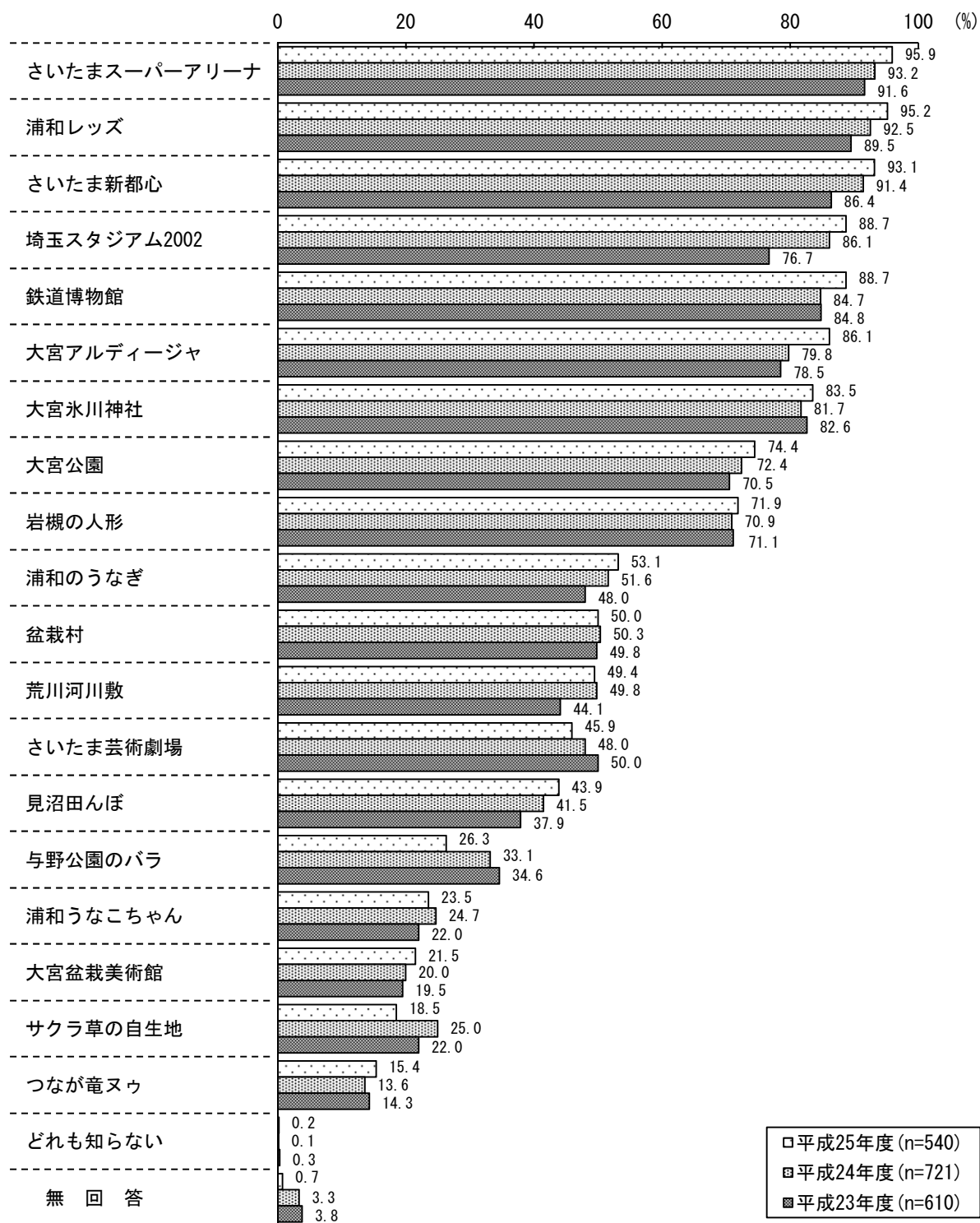
(注記) 『満足 (計)』は、「満足」「やや満足」の合計  
 『不満 (計)』は、「不満」「やや不満」の合計

(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

A-2. 在勤者

問1 「さいたま市内」にある下記の施設、名所、特産品等について、あなたが知っているものすべてに○印をつけてください。(○はいくつでも)

図1-1-1 さいたま市内の施設、名所、特産品等について知っているもの

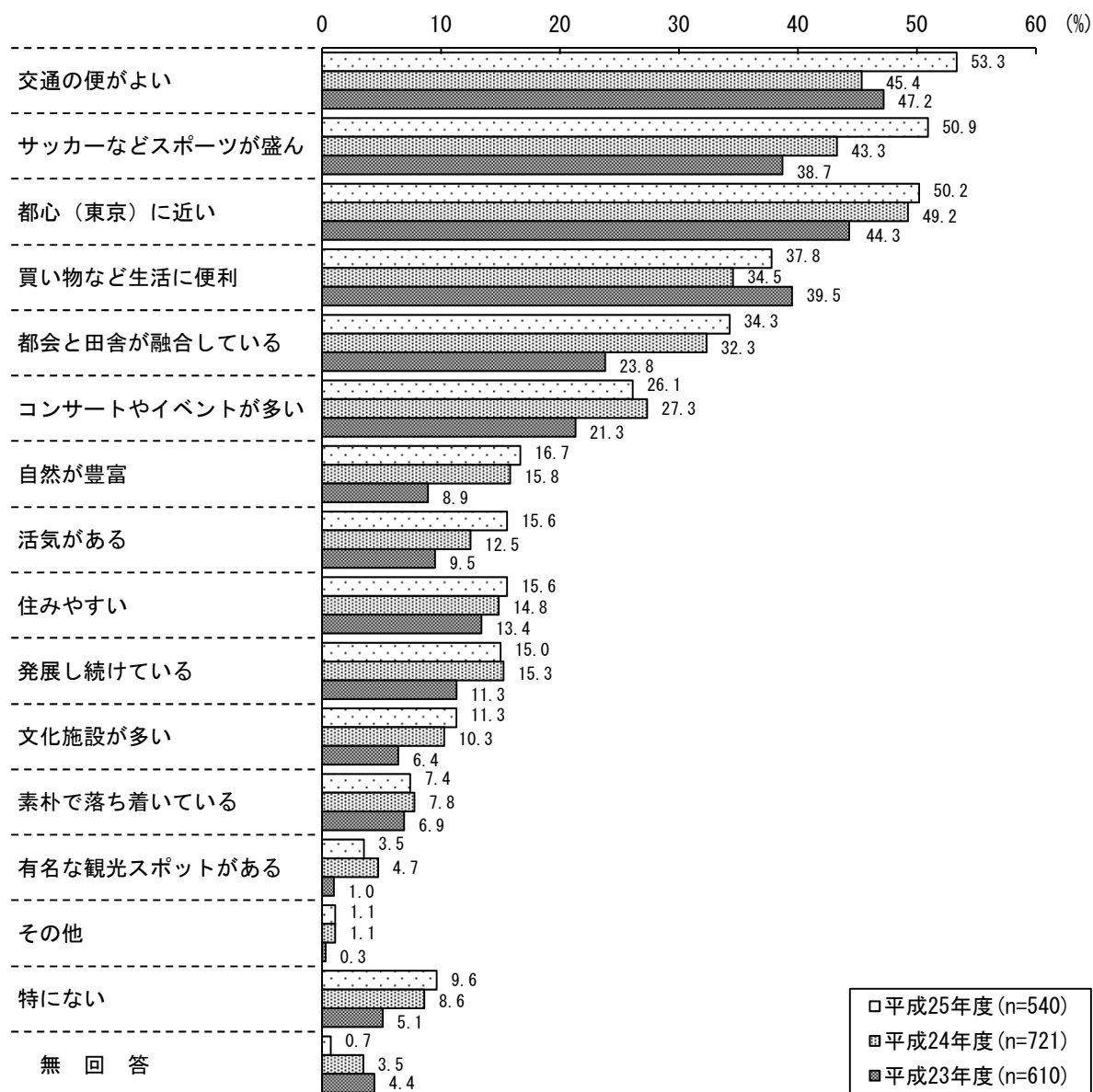


(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)



問2 あなたは、「さいたま市」のどのようなところに魅力を感じますか。また、よいところだと思いますか。(〇はいくつでも)

図1-3-1 さいたま市の魅力

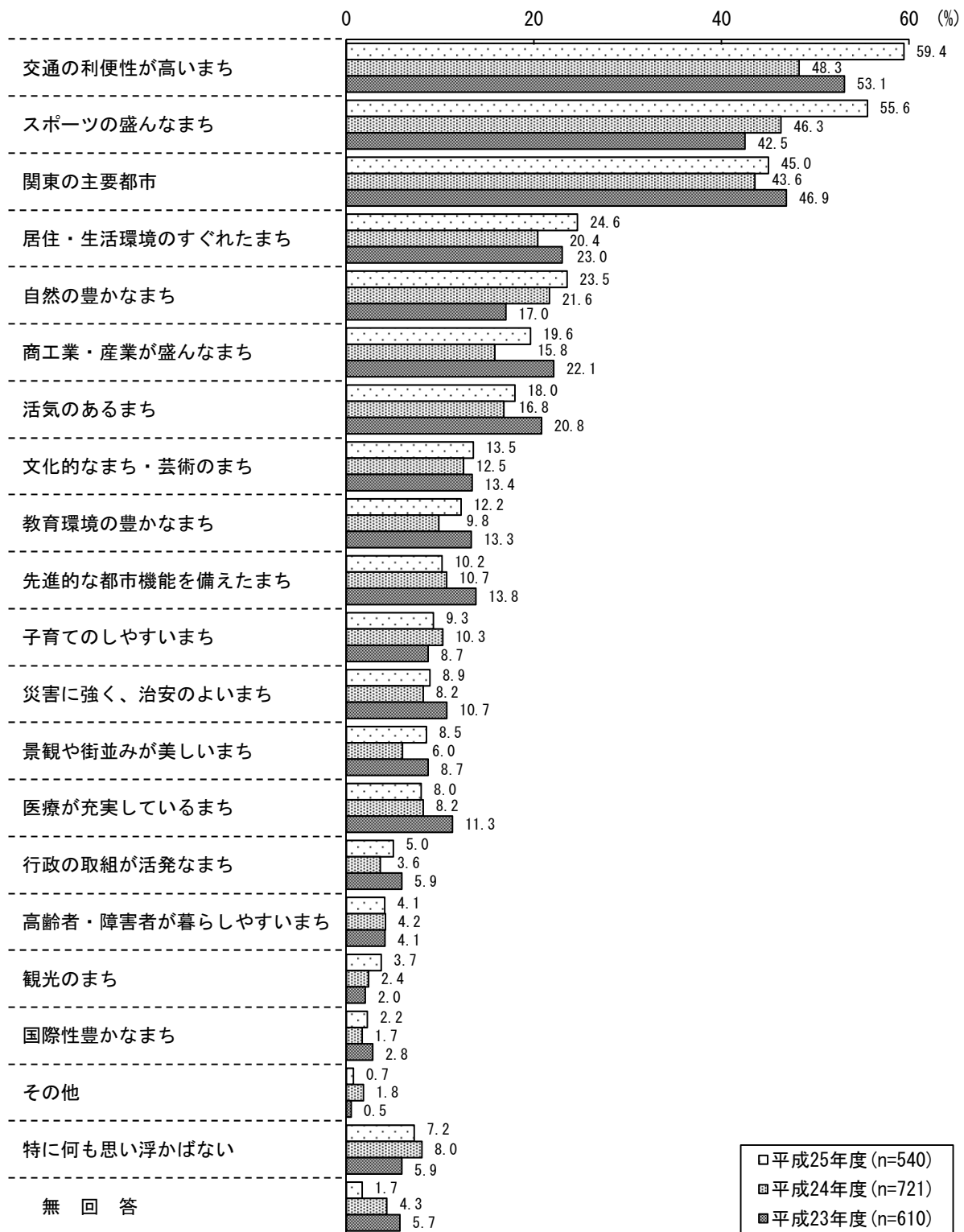


(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

問4 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(1)「さいたま市」にどのようなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

図1-7-1 さいたま市のイメージ

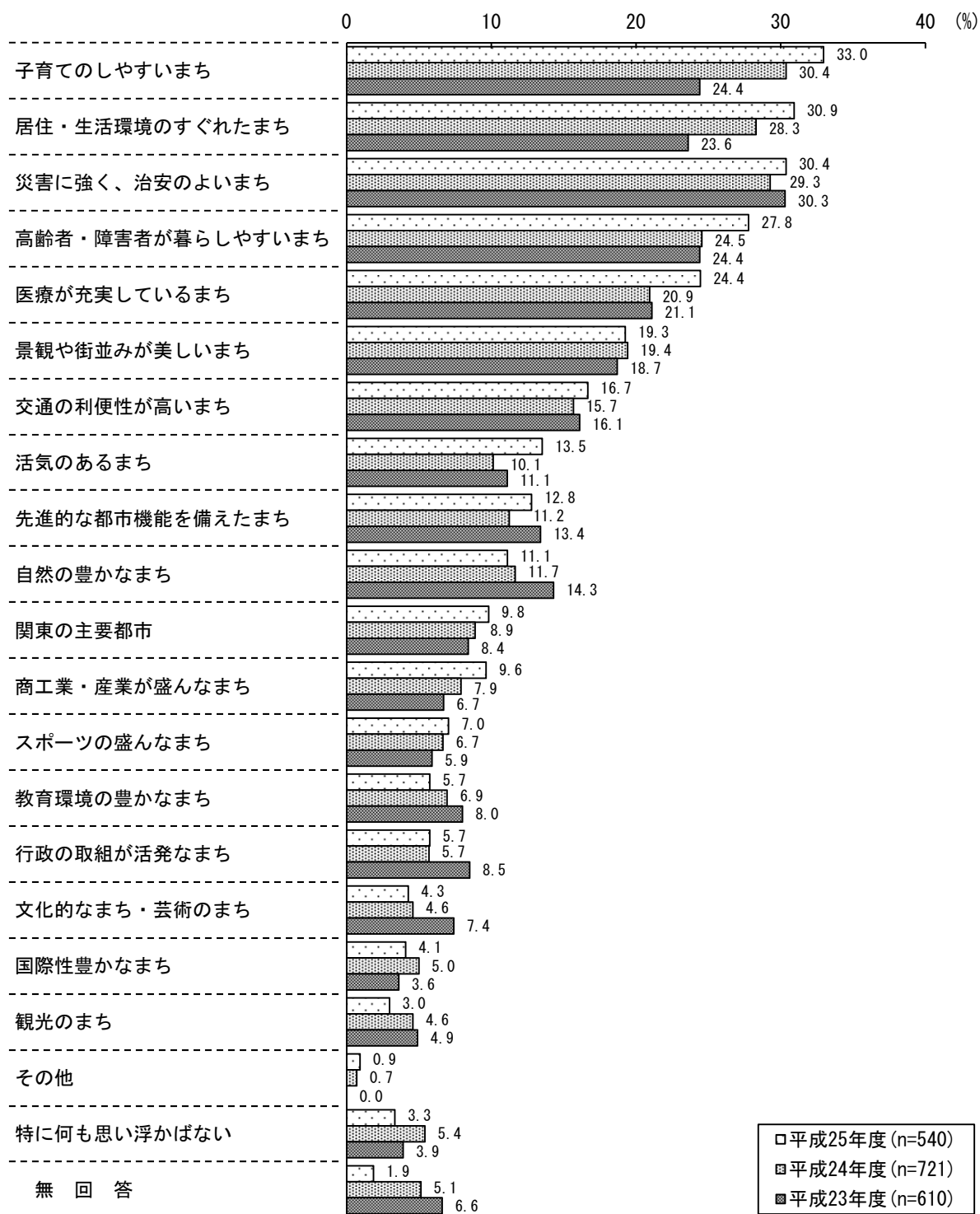


(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

問4 現在の「さいたま市」のイメージと今後の発展の方向について質問します。

(2) 誰もが住んでみたいと思う魅力的な都市になるためには、将来どのような方向へ発展すればよいと思いますか。(〇は3つまで)

図1-9-1 さいたま市の発展の方向性

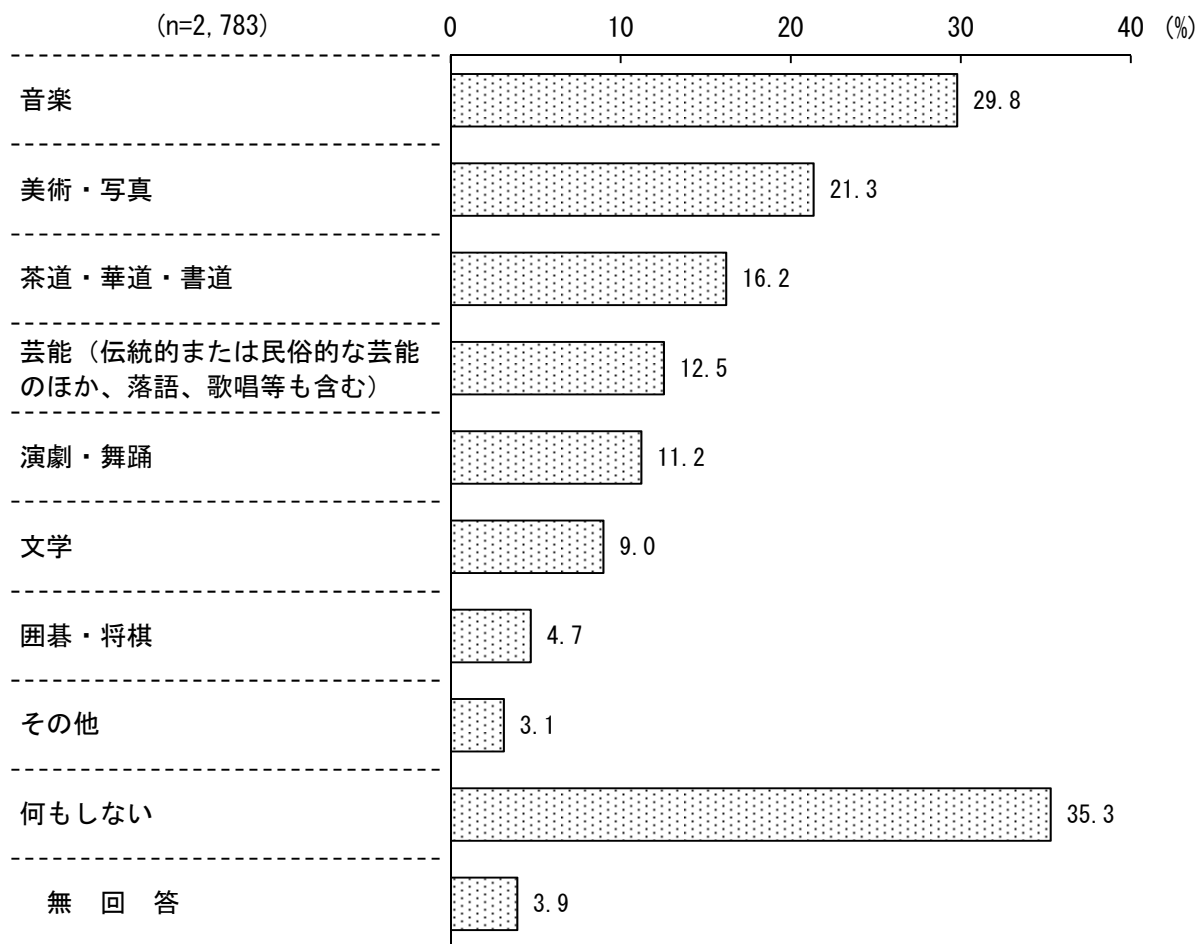


(出典：平成25年度 さいたま市民意識調査報告書)

A-3. 在住者

問17 現在、あなたが参加している、または参加したい文化芸術活動は、どの分野ですか。  
 当てはまるものすべてに○印をつけてください。(○はいくつでも)

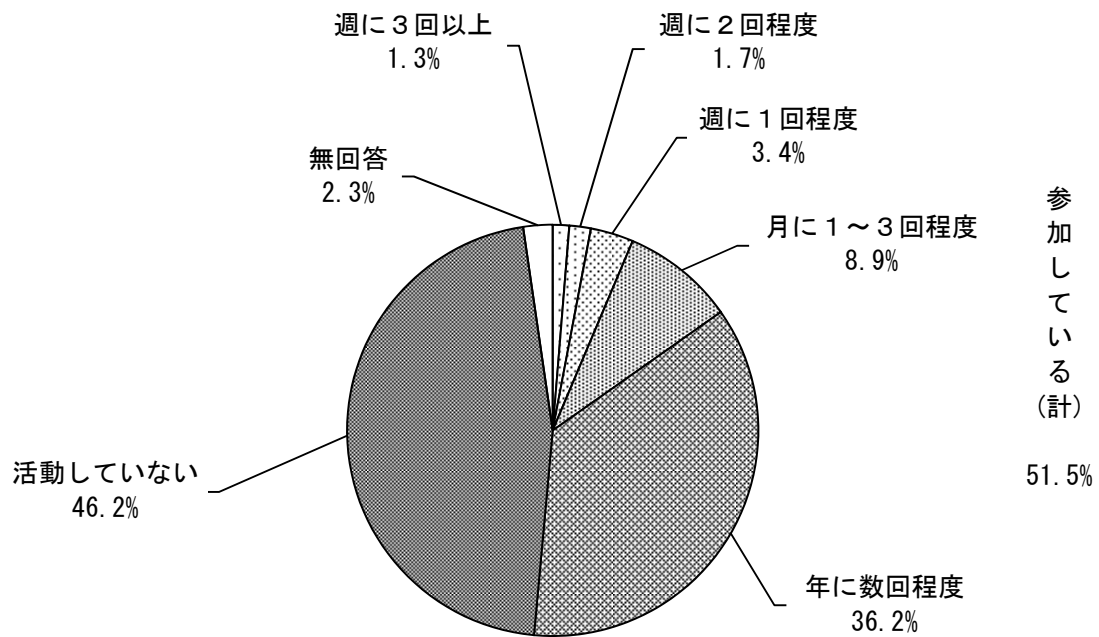
図7-1-1 参加している(参加したい)文化芸術活動



(出典：平成24年度 さいたま市民意識調査報告書)

問 18 あなたは、過去 1 年間に、文化芸術活動（鑑賞等含む）をする機会がどのくらいありましたか。（〇は 1 つ）

図 7-2-1 過去 1 年間の文化芸術活動への参加状況



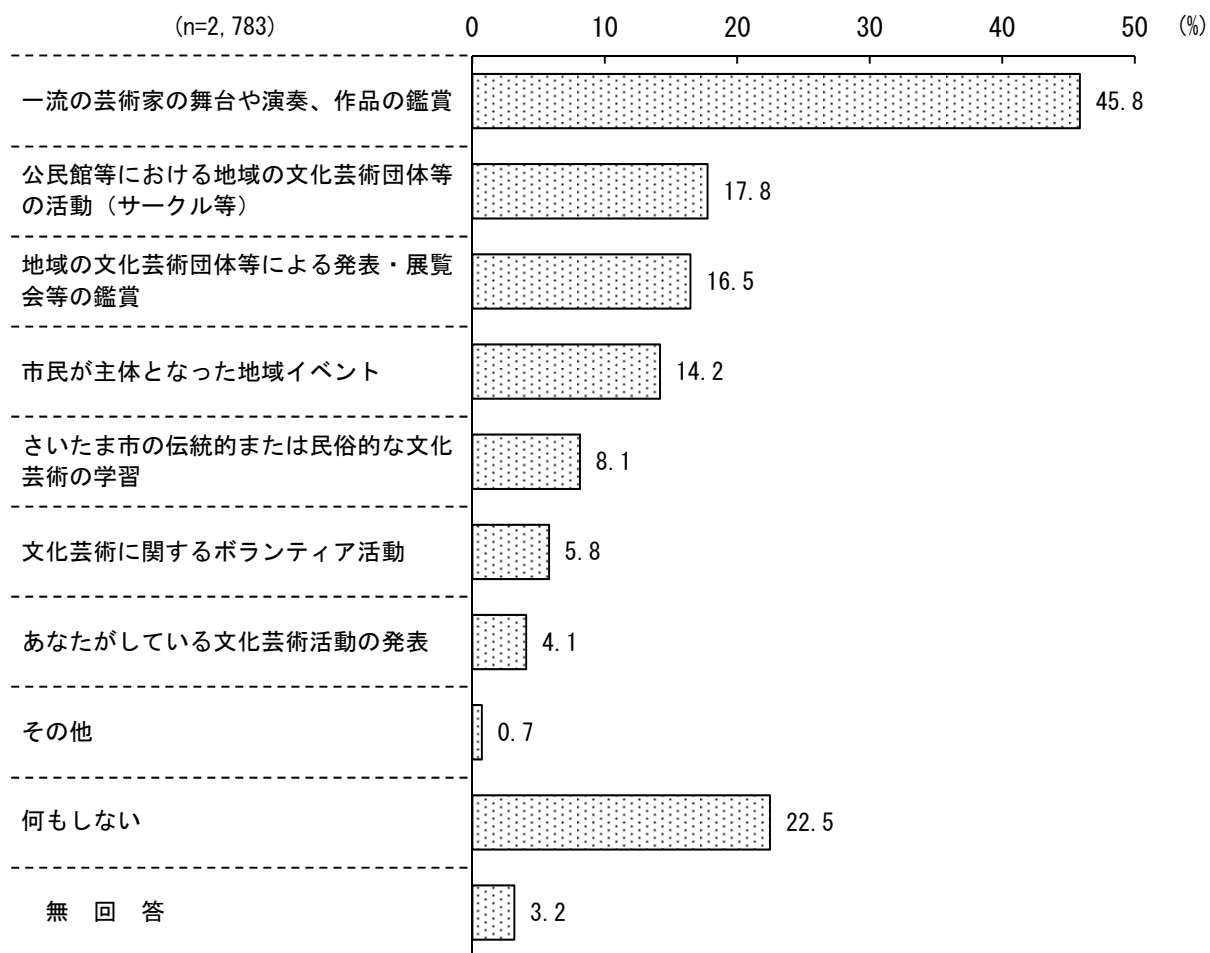
(n=2,783)

（注記）『参加している（計）』は「週に3回以上」から「年に数回程度」の合計

問 19 あなたが、市内で文化芸術活動をするとしたら、どのような活動をしますか。

(○は2つまで)

図 7-3-1 今後活動する文化芸術分野

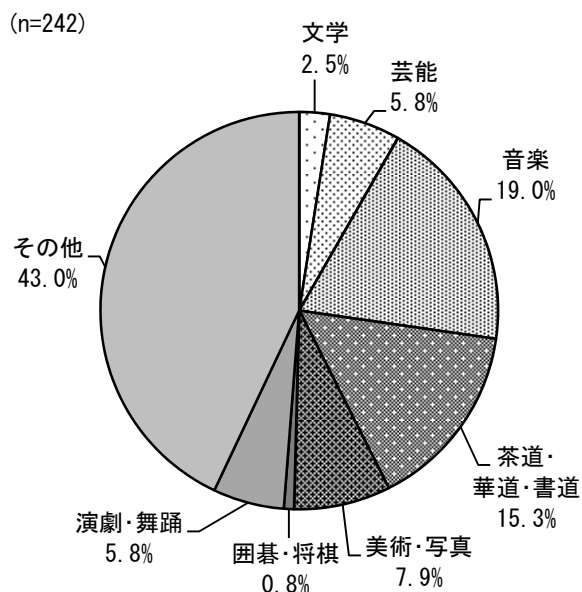


(出典：平成 24 年度 さいたま市民意識調査報告書)

## B. 文化芸術活動団体調査

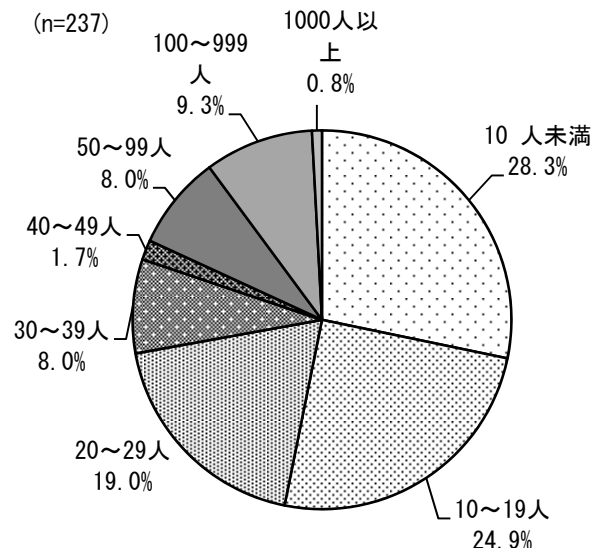
[Q1]主に、どのような活動を行っていますか。

- ①「音楽」(19.0%)が最も多く、次いで「茶道・華道・書道」(15.3%)が多い。



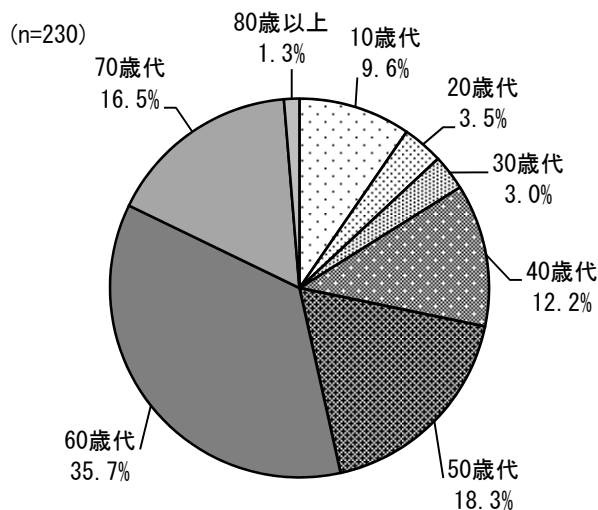
[Q2]会員数は何人ですか。

- ①「10人未満」(28.3%)が最も多く、次いで「10~19人」(24.9%)。  
②「100人」を超える大規模なグループも見られる(10.1%)。



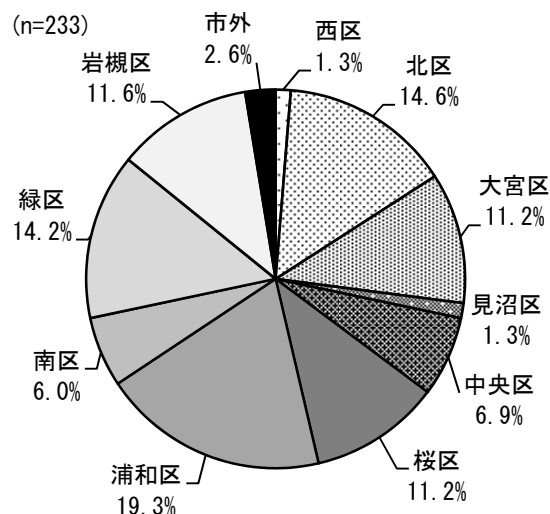
[Q3]会員の中で最も多いのはどの年齢層ですか。

- ①「60歳代」(35.7%)が最も多く、次いで「50歳代」(18.3%)、「70歳代」(16.5%)。60歳以上の高齢者が全体の半数を占めている。



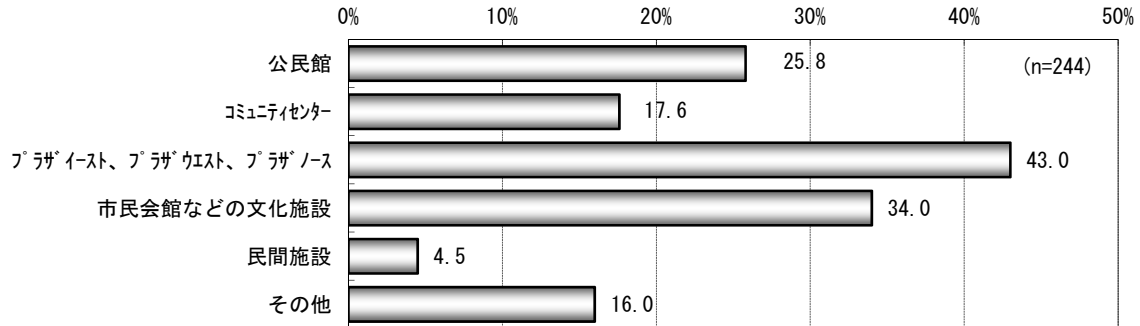
[Q4]主な活動地域はどこですか。

- ①「浦和区」(19.3%)が最も多い。



[Q 5]主な活動場所はどこですか。(複数回答)

- ①「プラザイースト、ウエスト、ノース」(43.0%)が最も多く、次いで「市民会館などの文化施設」(34.0%)が多い。
- ②「民間施設」「その他」は少なく、公共施設が主な活動の場となっている。



[Q 6]活動を行う上で困っていることはありますか。(複数回答)

- ①主な課題としては、「会員・後継者の減少」(30.0%)、「練習や活動を行う場所の不足」(27.8%)などが挙げられている。

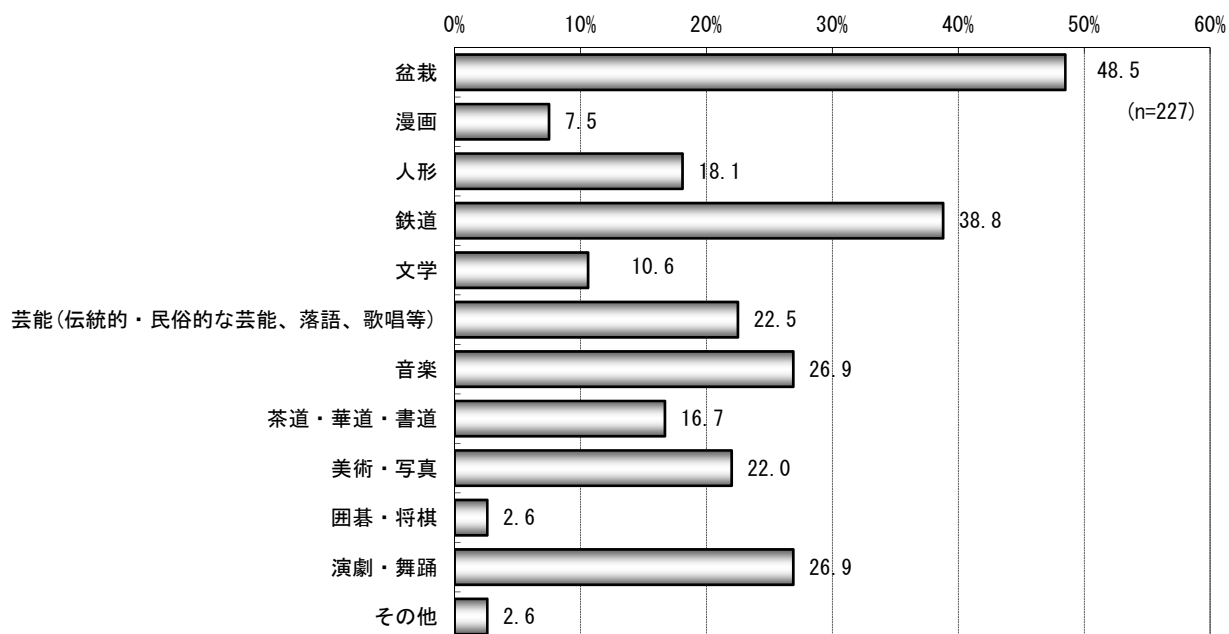




[Q7]さいたま市を代表する文化芸術として、広く発信すべきものは何ですか。

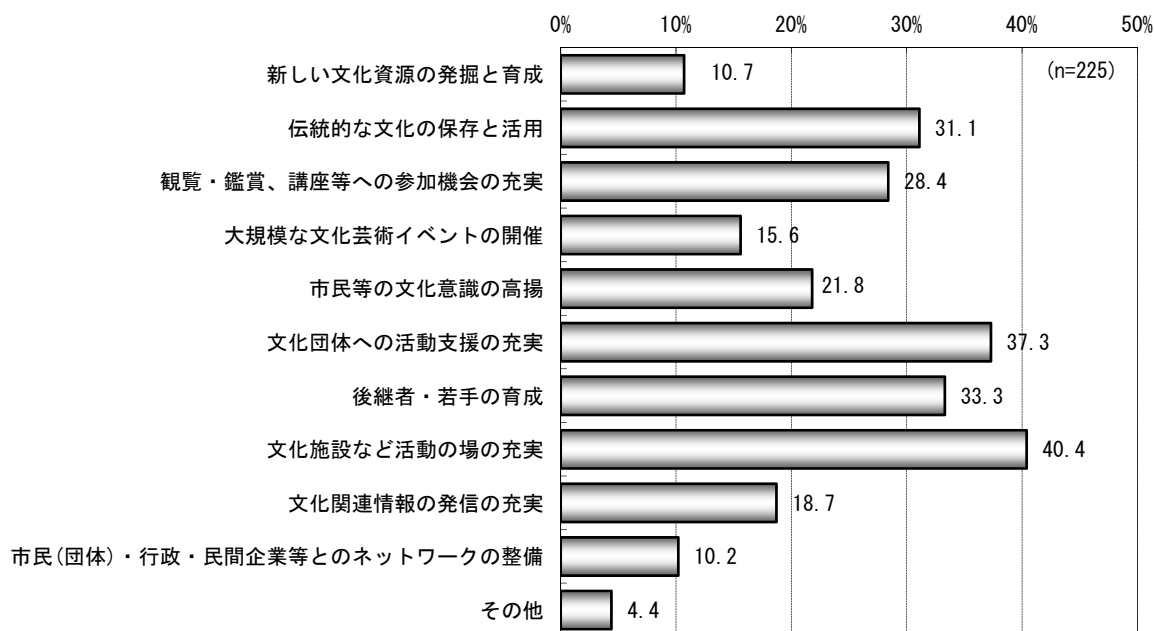
(複数回答)

- ①「盆栽」(48.5%)が最も多く、次いで「鉄道」(38.8%)。  
 ②団体の活動で多かった「音楽」(26.9%)は、鉄道に続いて第3位となっている。また、「演劇・舞踊」(26.9%)も同率で3位となっている([Q1]団体の活動で「演劇・舞踊」は、全体の5.8%)。



[Q8]文化芸術を活かしたまちづくりを行うために、どのような取組が必要であるとお考えですか (複数回答)

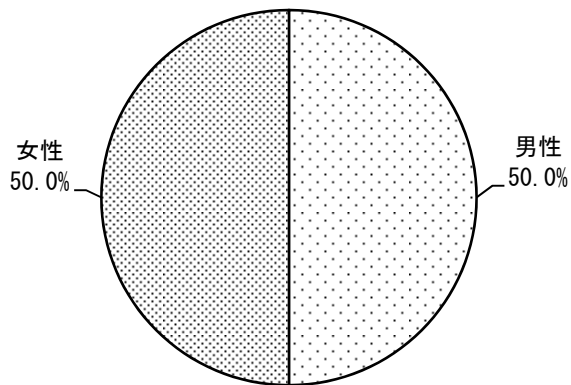
- ①「文化施設など活動の場の充実」(40.4%)が最も多く、次いで「文化団体への活動支援の充実」(37.3%)、「後継者・若手の育成」(33.3%)、「伝統的な文化の保存と活用」(31.1%)。



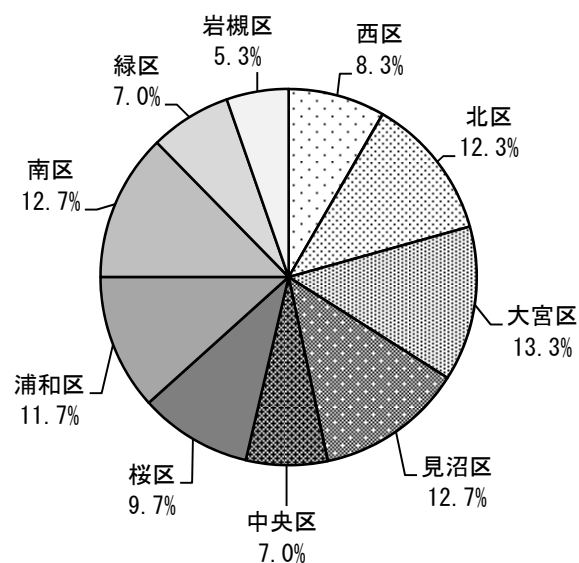
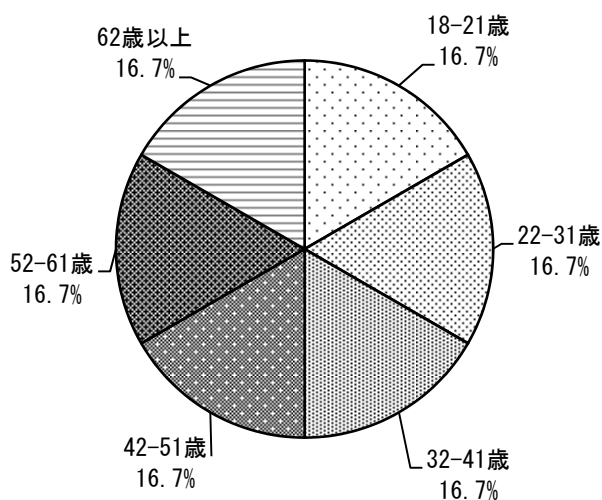
### C. 市民文化芸術活動状況調査

#### <回答者属性>

- 回答者は、さいたま市民で男女及び各年齢層が均一になるよう設定。
- 居住している区については、若干のばらつきがある。最も多いのは「大宮区」(13.3%)、少ないのは「岩槻区」(5.3%)。



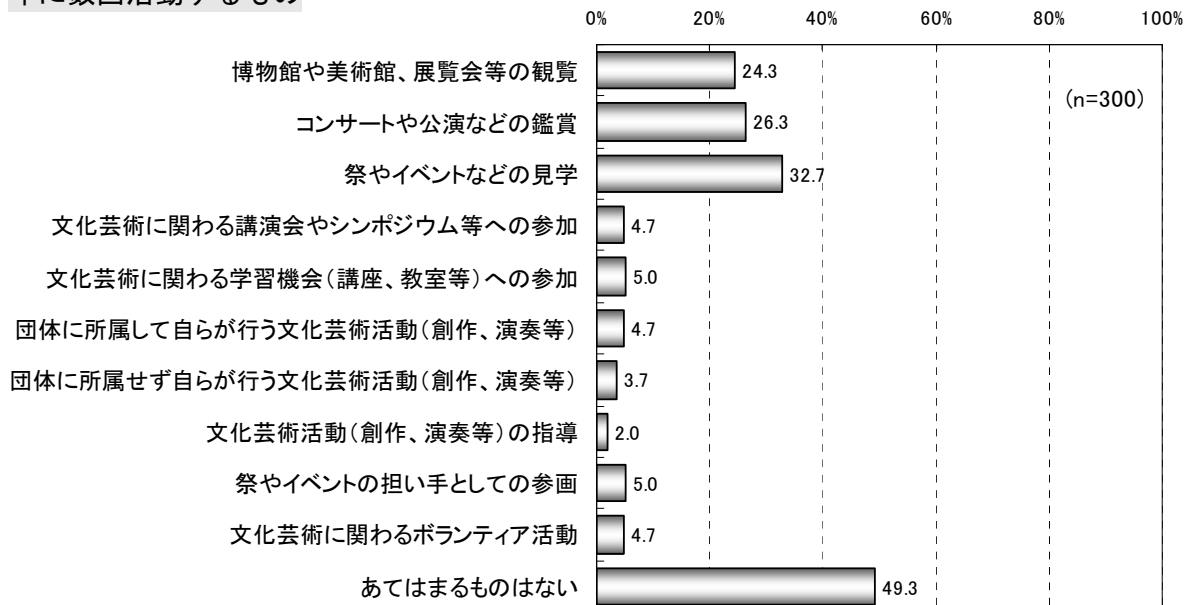
(n=300)



[Q1]さいたま市内で行われる文化芸術活動に参加していますか。(複数回答)

①参加している活動では、「博物館等の観覧」(24.3%)や「コンサートなどの鑑賞」(26.3%)、「祭やイベントなどの見学」(32.7%)といった受動的な活動が中心である。

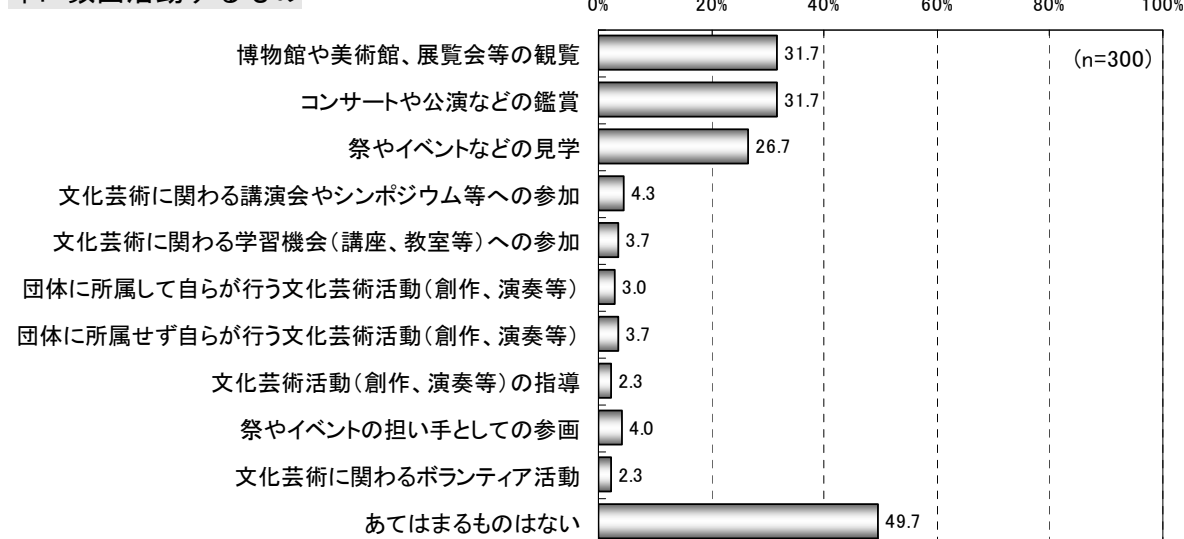
年に数回活動するもの



[Q2]さいたま市外で行われる文化芸術活動に参加していますか。(複数回答)

①参加している活動では、「博物館等の観覧」(31.7%)や「コンサートなどの鑑賞」(31.7%)、「祭やイベントなどの見学」(26.7%)といった受動的な活動が中心である。市内での活動と比べると、「博物館等の観覧」「コンサートなどの鑑賞」では市外での参加率が高いのに比べ、「祭やイベントなどの見学」では市内での参加率が高くなっている。

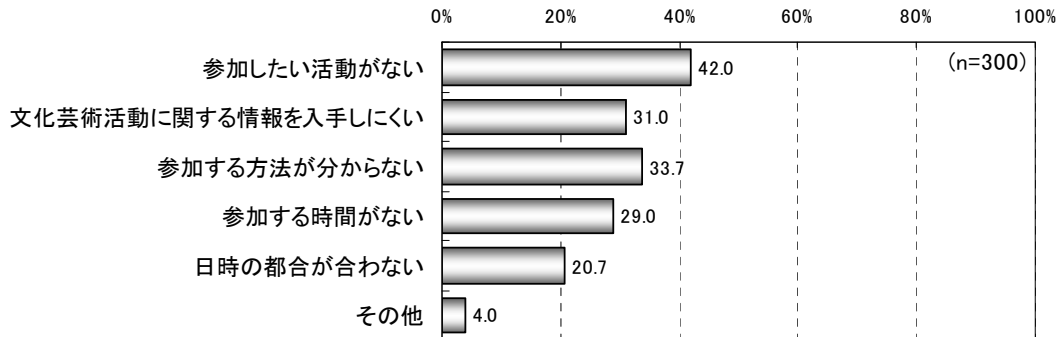
年に数回活動するもの



[Q 3]さいたま市内で行われる文化芸術活動に参加する場合の課題はありますか。

(複数回答)

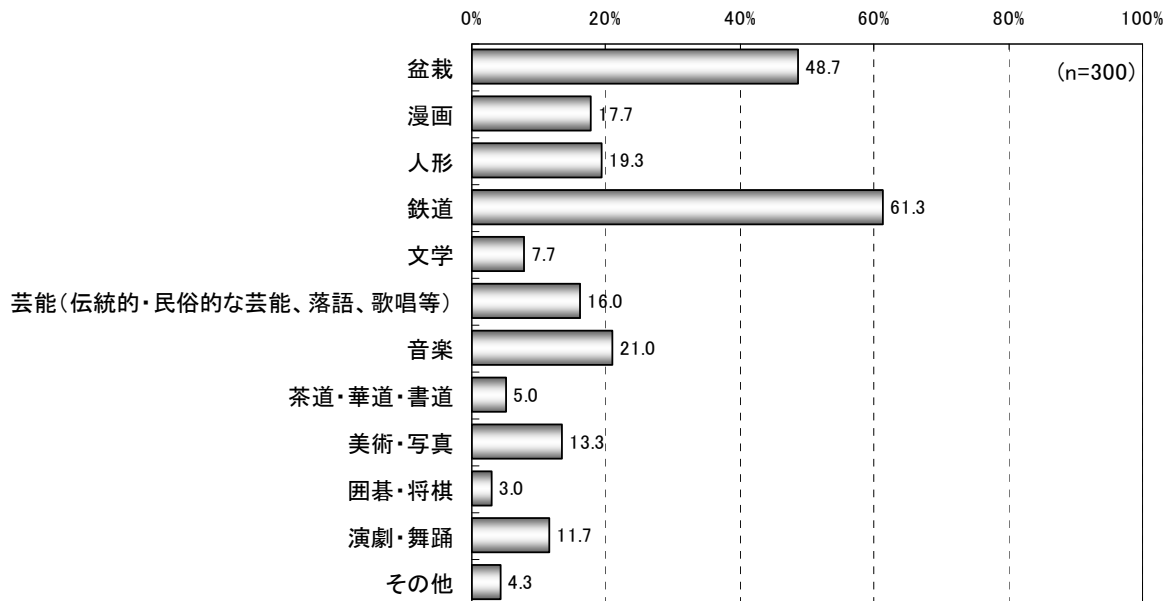
- ①「参加したい活動がない」(42.0%)が最も多い。
- ②「情報を入手しにくい」(31.0%)、「参加する方法が分からない」(33.7%)など、情報発信に関する課題も見られる。



[Q 4]さいたま市を代表する文化芸術として、広く発信すべきものは何ですか。

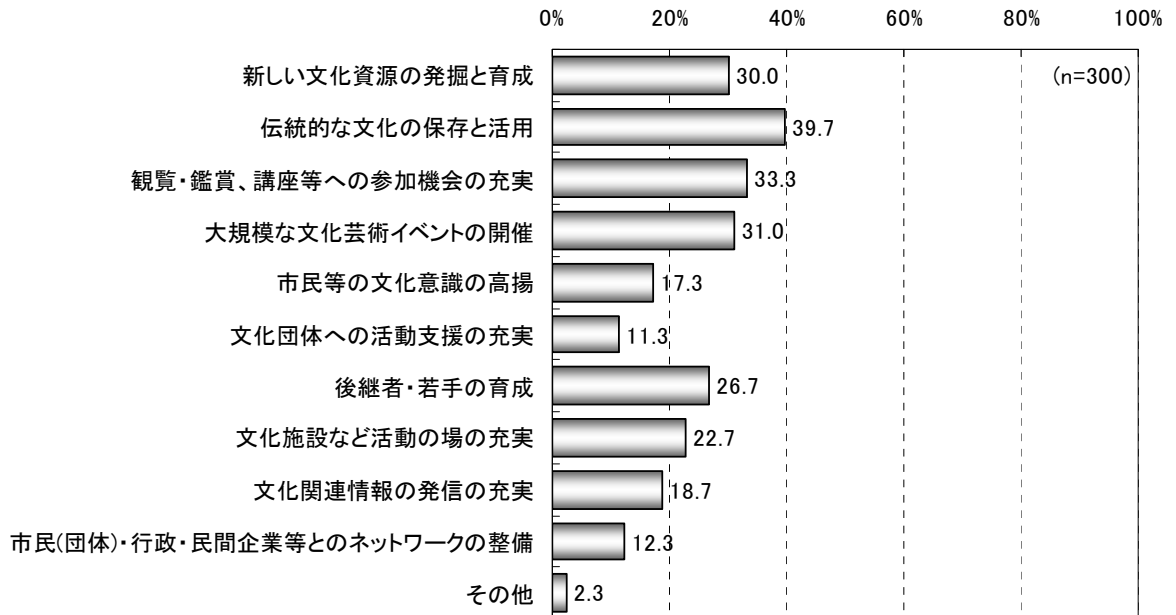
(複数回答)

- ①「鉄道」(61.3%)が最も多く、次いで「盆栽」(48.7%)。



[Q5] 文化芸術を活かしたまちづくりを行うために、どのような取り組みが必要であるとお考えですか。(複数回答)

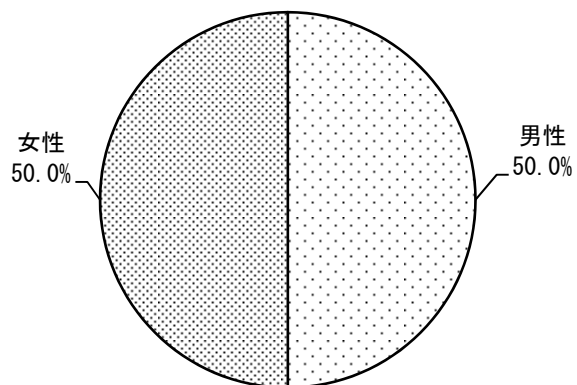
①「伝統的な文化の保存と活用」(39.7%)が最も多い。次いで「観覧・鑑賞等への参加機会の充実」(33.3%)、「大規模な文化芸術イベントの開催」(31.0%)、「新しい文化資源の発掘と育成」(30.0%)がほぼ同率で並んでいる。



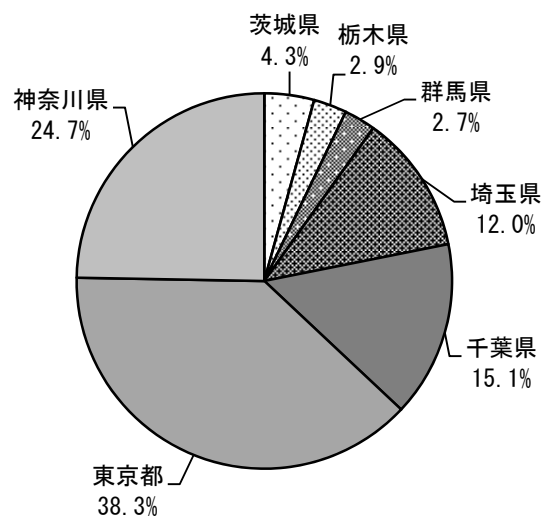
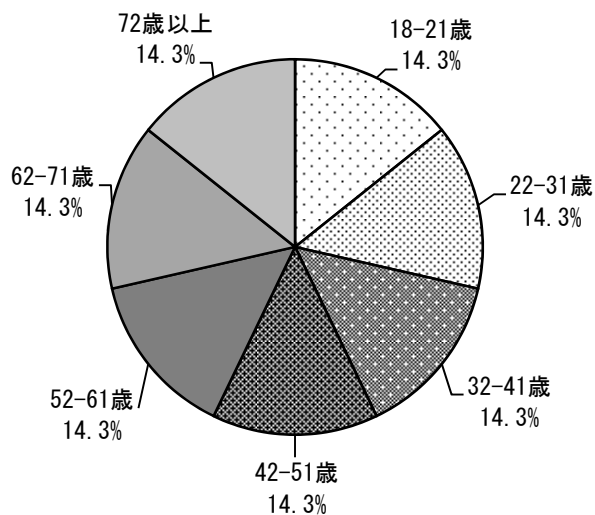
## D. さいたま市イメージ調査

### <回答者属性>

- ・回答者は、男女及び各年齢層が均一になるよう設定。
- ・居住地については、ばらつきがある。最も多いのは「東京都」(38.3%)、少ないのは「群馬県」(2.7%)。

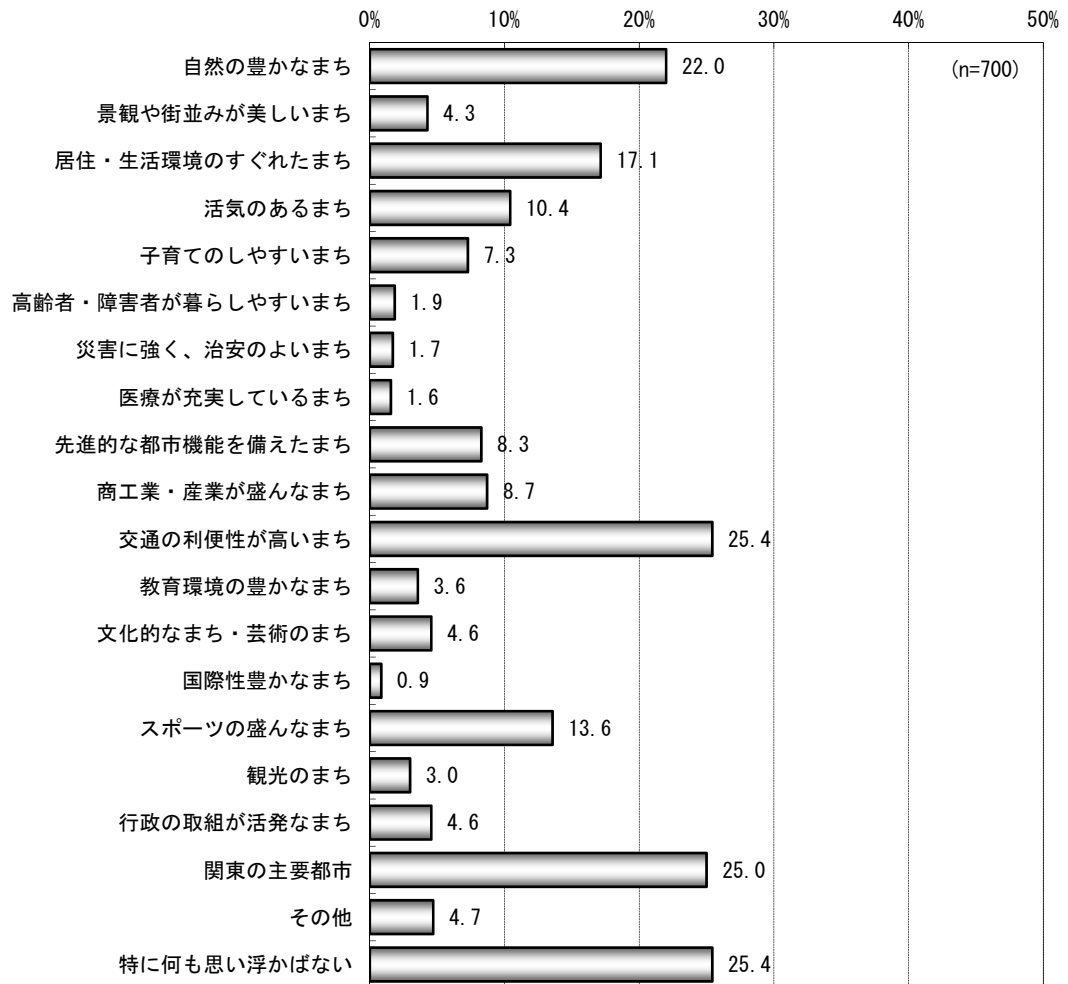


(n=700)



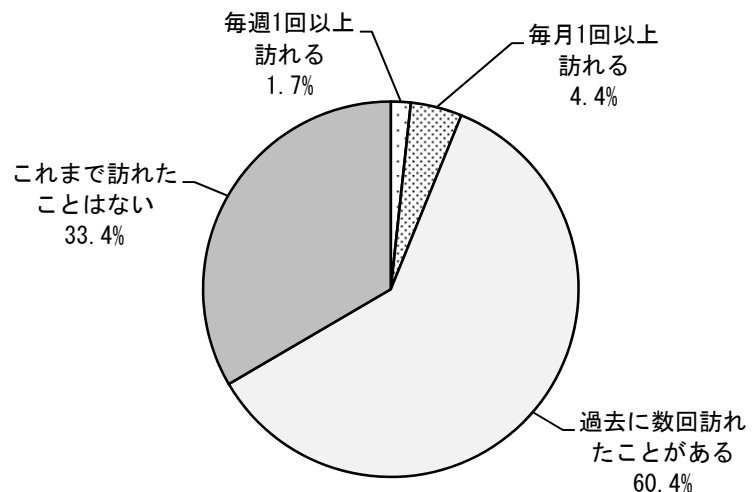
[Q1] さいたま市にどのようなイメージをお持ちですか。(複数回答)

- ① 「交通の利便性が高いまち」(25.4%)、「関東の主要都市」(25.0%)、「特に何も思い浮かばない」(25.4%) がほぼ同列で多い。次いで、「自然の豊かなまち」(22.0%)。
- ② 「文化的なまち・芸術のまち」は4.6%にとどまる。



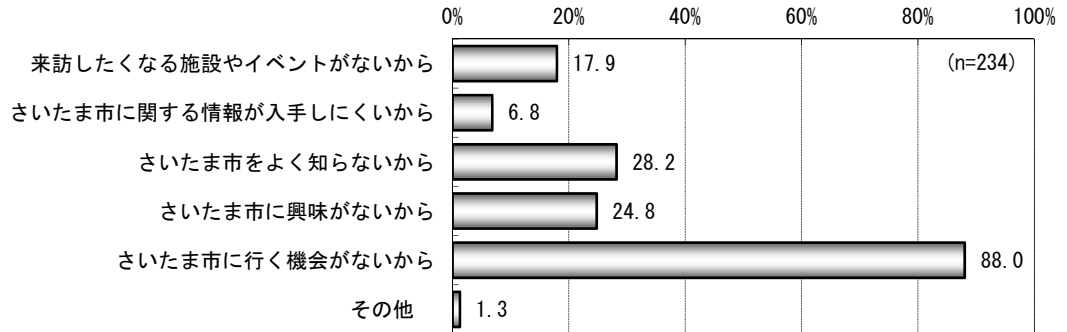
[Q2] さいたま市を訪れたことがありますか。

- ① 「過去に数回訪れたことがある」(60.4%) が最も多い。
- ② 「これまでに訪れたことはない」も33.4%に上る。



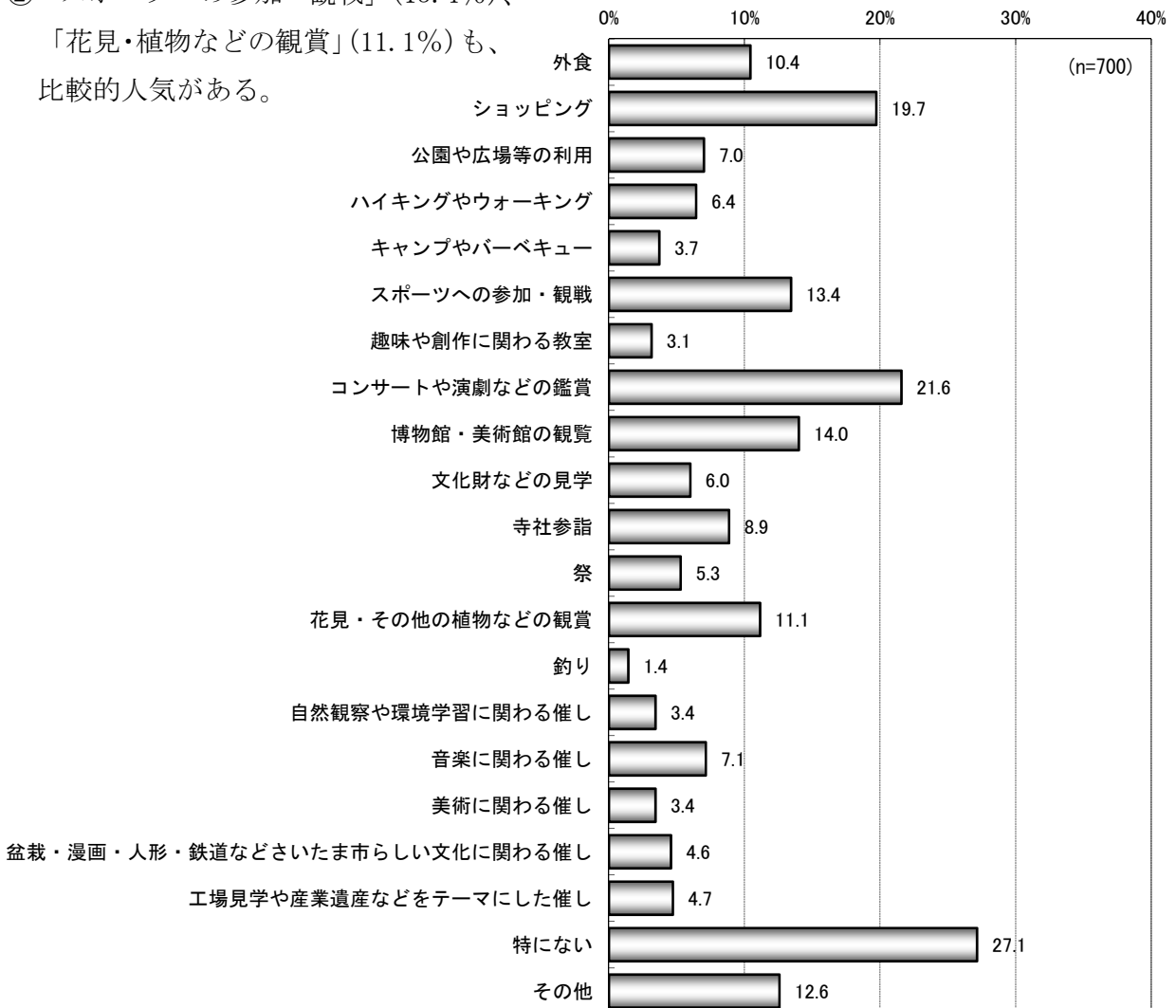
**[Q 3] (さいたま市を訪れたことのない方) 来訪しない理由は何ですか。(複数回答)**

- ①「さいたま市に行く機会がないから」(88.8%) が最も多い。
- ②「さいたま市をよく知らないから」(28.2%)、「さいたま市に興味がないから」(24.8%) も多く、さいたま市のイメージが伝わっていないことが伺える。



**[Q 4] さいたま市を訪れるきっかけとして、どのようなことが考えられますか。(複数回答)**

- ①「コンサートなどの鑑賞」(21.6%) が最も多く、次いで「ショッピング」(19.7%)、「博物館・美術館の観覧」(14.0%) の順。
- ②「スポーツへの参加・観戦」(13.4%)、「花見・植物などの観賞」(11.1%) も、比較的人気がある。





---

## さいたま市文化芸術都市創造計画

発行 平成 26 年 3 月  
編集 さいたま市 市民・スポーツ文化局 スポーツ文化部 文化振興課  
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤 6 丁目 4 番 4 号  
T E L 048-829-1226  
F A X 048-829-1922  
E-mail bunka-shinko@city.saitama.lg.jp

---

■表紙のデザイン 重なり合う曲線は、美術、音楽、舞踊、盆栽といった様々な文化芸術の要素を表しており、それらが効果的に関わりながら混じり合い、国内外との交流が活性化し、さいたま市の魅力が光り輝いていくことを表現しています。

